京城日報

十五日夕刊

本紙定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢 [以下不明]
廣告料 [不明]
發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 巻口啓太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

◎獨逸講和條件
ヴェルダン戰勝後提出か

ハウス大佐は伯林に於て獨逸の講和條件なる者を得之を大統領に提供したり獨逸はヴェルダンにて豫定の戰勝を得ば之を提出するならんと云ふ者あり又華盛頓駐在獨逸大使館より洩したる獨逸の講和條件なるものは獨逸殖民地の全部返還し双方共償金を要求せざる事及びモンテネグロ塞耳維アルバニヤを墺國及び勃牙利に割讓し波蘭に獨逸の保護政治を布く事土耳其より英國の勢力を全部撤回する事ミ白耳義佛國に於ける獨逸の占領地を元の如く返還する事英國は何等の割讓取得する事無く現狀に止まる事といふに在り(紐育電報)

◎ヴェルダン北方戰況

十二日發表の公報に曰く、ヴェルダンの北方に於ては終日砲兵戰ありムーズ河の兩岸に於ける砲聲は稍激烈に行はれたり佛軍の重砲はドーモンの東方に於ける敵の砲兵及びヴォヴルの高地の北方に位するラウイネに集合せる敵の頭上に砲彈を見舞ひたり(倫敦電報)

◎廣西省既に獨立す
廣東省順德に革命起る

上海時報者香港十三日付來電に據れば廣西既に獨立せりとあり又廣東省順德縣北江地方に革命黨二千旗を樹てゝ事を起せるを以て廣東省城より討伐隊を派遣せりと(上海特電)

◎臨檢事件解決せん

英國假裝巡洋艦の我商船臨檢事件は政府より英國政府に交渉中にして其結果臨檢の理由判明せば相互協議の上我商船臨檢の必要を除去する事とし解決を告ぐべしと觀測さる(東京電報)

◎經濟同盟贊同回答

去る十日帝國政府は英露佛の經濟同盟會の主義に贊同し同會議に委員を參列さす可き旨佛國政府に回答せり(東京電報)

◎日露銀行設立議

兵器供給上日露間の經濟關係を圓滑ならしむる爲日露銀行を設立すべしとの議有力者に唱導せられ居れり(東京電報)

◎四張鐵道と借款

銀行團にては四平街張家口間鐵道借款貸出しに關し協議中なり(東京電報)

◎上陸交代兵

朝鮮新設第廿師團第四十旅團の一部を編成すべき第一回交代步兵第四十三、十二、四十四、六十二、十一、卅二、七十一、四十二聯隊の各一部將校廿一名下士以下九百名は御用船第一琴平丸にて十三日午後著釜同夜は船內にて一泊し十四日午前九時半上陸を了したるが同日は釜山にて一泊し十五日午後一時五十五分釜山發軍用列車にて各所屬地に向ふ(釜山特電)

◎大典式場拜觀團 釜山

商業會議所主催の大典式場拜觀團一行は元氣旺盛にて十五日午前入港の弘濟丸にて無事歸釜せり(釜山特電)

◎杉山氏渡鮮

杉山茂丸氏臺灣より歸東の途連絡船弘濟丸にて十五日午前渡鮮同十時三十分發列車にて京城へ向ふ(釜山特電)

◎三井物產石炭會議

三井物產會社の石炭會議は同社門司支店に於て十五日より三日間開催各地の支店長三十餘名來會せり(門司特電)

◎記念章拜受者

秋御大典の際地方に於て饗饌を受けたる者七千七百十九名並に大典に參列したる者三十六名合計七千七百五十五名に對しては不日賞勳局より記念章の送附ある筈なるが大典當時東京に出張中なりし大塚參事官、河內山事務官及び屬官等十五名は既に之を拜受せり、又た饗饌を賜はる資格なくして而も饗饌の事務に干係せる者にも記章を下賜せらるゝや否やは目下政府に於て審議中なりと

行幸啓御日取

天皇陛下の畝傍山陵二千五百年御式年大祭行幸竝に皇后陛下の神宮、畝傍山陵、前四帝山陵行啓御日取は大體左の如く御治定相成り十二日葉山御用邸に參上せし波多野宮相より御裁可を奏請せり

△行幸御日取 四月一日午前御出發、午後名古屋御著、同離宮御一泊△二日午前名古屋御發車、午後奈良御著、奈良倶樂部御泊△三日午前 皇后陛下御同列畝傍山陵行幸、午後奈良倶樂部還幸

△行啓御日取 三月二十九日午前東京御發車、午後名古屋御著、同離宮御一泊△三十日熱田神宮御參拜、午後宇治山田御著、神宮司廳御泊△三十一日豐受大神宮御參拜、皇大神宮御參拜、宇治山田御泊△四月一日午前宇治山田御發車、午後奈良御著、奈良倶樂部御泊△二日午前 天皇陛下御同列にて畝傍山陵御參拜、午後奈良倶樂部還啓

聖上陛下 皇后陛下には畝傍山陵大祭御結了後三日京都に成らせらるゝことゝ陛下には京都に成らせらるゝも 皇后陛下には吉野山に行啓遊ばさるゝか或は御同行にて京都に成らせらるゝかは宮相奏上の結果に依り兩三日中に御決定相成る由(東京)

◎若見侍從武官出發

若見侍從武官は朝鮮駐劄軍慰問使として差遣され各隊の慰問を終り十五日朝南大門驛發列車にて內地に向け出發せり憲兵隊司令部より齋藤副官、軍參謀より渡邊副官釜山まで見送りの爲め同乘せり

◎交代兵通過

鳥致院及び大田駐劄交代兵六百二十名引率者梅崎大尉外十六名準士官四名其他十五日午前二時十分安東方面より龍山著同三時三十分交代地へ向け出發せり因に右交代兵に對し仁川愛國婦人會支部より菓子、繪葉書を寄贈しまた鐵道よりは茶其他を寄贈せり

◎愛婦の軍隊送迎

愛國婦人會朝鮮本部にては十五、十六兩日及び四月二日龍山驛を通過して歸還又は新に派遣されたる軍隊一千三十六名に對し送迎慰勞の意を表する爲卷煙草一個及び記念繪葉書一組宛を軍司令部副官部を經て寄贈せりと

◎豐邊騎兵監檢閱

入京中なる騎兵監豐邊陸軍中將は既報の如く十五日午前九時より騎兵第九聯隊長太田騎兵少佐と共に龍山なる騎兵中隊を檢閱し同所にて午餐を認め午後に及びたるが第九師團參謀長岡本步兵大佐も臨席せり

◎砲兵中隊檢閱

羅南駐劄野砲兵聯隊長山縣太郎大佐は龍山駐劄野砲兵中隊の初年兵教育狀況檢閱の爲め十九日頃入京の筈

◎川村師團長病症

金澤留守師團より第九師團司令部宛十四日午前發の電報に據れば川村師團長の病症は神經衰弱なる脈搏百三十を數へ時々昏睡狀態に陷り漸次危險の度を加ふるの狀態なりとありしが其後十五日正午迄は何等の後報なし

◎研修會例會

總督府職員研修會第二回例會は既記の如く十五日午前八時三十分より總督府第二會議室に開催、甲班に屬する判任官二百數十名は勿論內務局長、高等官等出席し土木局技師鈴木坂鐵氏の上水道の話及び農商工部長石塚英藏氏の命令と服從との關係に就き講演ありて九時三十分閉會したり

◎總監部講演例會

警務總監部及び憲兵隊司令部にては十五日午前八時半總監部會議室に於て講演例會第二回を開催立花總長以下各課長及び判任官以上參所前第二回の節提出したる問題に對する各自の答案に就き中野玄角兩警務官の講評ありたり

◎林野大貸付者會同

京畿道廳にては構內宣化堂に於て十五日午前十時より道管內に於ける國有林野大貸付者會同を開催せり會同者は何れも百町步以上の被貸付者二十六名餘にして造林成績及び今後に於ける造林保護監督等に關して打合注意等あり更に道長官の訓示ありて終りて懇談散會せり

◉府內隊署長恆例會

十五日午後京城府內各隊署長恆例會を警務部に於て開會せり尚同日は各隊署の下士警部等も召集し隈部警務部長より訓示する所ありたり

◉統計講習修業式

既記の如く京畿道警務部にては管內各警察署員並に憲兵分遣所員を集めて會計及び統計に關する講習會開會中なるが十五日を以て統計科に對するのみの修業式を行へり

◉京城府尹の招待

金谷京城府尹は十五日午後六時より京畿道の重なる學校長、府協議會議員、學校組合議員等を南山町花月に招待す

◉中學校卒業式

京城中學校にては十六日午前十時より第四回證書授與式を擧行し卒業生八十四名に對し卒業證書を授與する由にて柴崎校長より各方面に對し其れぞれ案內狀を發したり

◉善隣商業卒業式

私立善隣商業學校にては來る二十日午後二時より卒業證書授與式を擧行すと

◉學校組合豫算

京城學校組合は來る十七日午後一時より組合會を開き大正五年度歲入出豫算を附議する筈なるが豫算總額は二十三萬千六百九十三圓にして歲入經常部組合費に於て二千六百六十四圓、使用料及び手數料に於て三千五百二十二圓、財產收入に於て千四十一圓を何れも前年度に比し增加し雜收入に於ては九百七十六圓を減じたり同臨時部に於ては繰越金に於て五千五百圓を增加したる外補助金に於ては二萬六千四百十一圓を減じ、過年度收入、寄附金に於ては前年度と增減なく、歲出經常部事務所費に於ては九百二十一圓幼稚園費に於て二百三十六圓財產管理費に於て百四十四圓等を何れも前年度に比し增加したる外會議費に於て百八十八圓、小學校費に於て四千二百五十八圓、高等女學校費に於て三百七十三圓、基本財產造成費に於て二百三十圓、國庫納金に於て二十九圓、雜支出に於て千二百九十七圓、豫備費に於て二千三百六十六圓を何れも前年度に比し減じ、學校衛生費に於ては增減なく又本年度より新に簡易實業專修學校費を置き千四百二十五圓を計上せり同臨時部に於ては、組合債費に於て五千五百四十八圓を增したる外小學校費に於て九千三百八十八圓、高等女學校費に於て四百七十五圓、寄附及び補助に於て千四百圓を減じ學校衛生費に於ては增減なし之を表示すれば左の如し

▲歲入の部
經常部 二十一萬五千四圓
臨時部 一萬六千六百八十九圓
合計 二十三萬千六百九十三圓

▲歲出の部
經常部 十九萬三千五十九圓
臨時部 三萬八千六百三十四圓
合計 二十三萬千六百九十三圓

◉大連工業學校生徒募集

滿鐵會社の經營に係る大連伏見臺の工業學校は土木、建築、電氣、機械、採鑛科に分かれ卒業生は朝鮮、滿洲、日本內地、支那等に分散され何れも相當に活動し居れるが同校にては本年も各科を通じ七十名の生徒を募集する由にて願書期日は四月八日限りとし年齡滿十四歲以上二十年以下の者にして高等小學卒業、中學第二學年修了又は之と同等の學力を有するものは何人も受驗の資格あり試驗期日は四月九日、十日、十一日の三日にして試驗は同校にて施行すべし

光州

▲全南果樹栽培 本道管內に於ける果樹栽培數は逐年增加の傾向あり今其筋の調査に依る大正四年度現在の樹數及び收穫高を擧ぐれば▲桃三九〇六一本四〇四六五貫▲梨六五二〇本▲柿一三〇二一八本▲苹果▲葡萄▲栗一三三三八八一本七一五五七七貫等にて各種とも前年に比し幾分增加し唯葡萄に限り順天及び靈岩の二郡に於て移住者の轉任に伴ひ他に搬出せること等に因りて著しく樹數を減じたる結果前年よりも一千六百餘本を減少し果樹全體にありては前年より四萬六千餘本の增加を見たり

▲各學校卒業式 光州小學校は來る二十三日卒業式を擧行すべく卒業生は尋常科三十三名高等科十七名なるが普通學校は二十四日其の式を擧ぐる筈にて本年卒業生は三十名前期までの累計百五十二名に及びたり而して農業學校も二十五日卒業式を行ふ由にて今回の卒業生は廿四名也と

▲鐵道沿線植樹 本道は去る十日より二十五日までに管內鐵道沿線の山野に植樹を爲すべく其樹種はクヌギ黑松にて合計六萬本に達すれば沿線の所々の禿山は幾分舊態を改むべしと

▲主任書記會議 管內府郡島書記會議は十三日午前九時より光州光山館にて開催道長官、兩部長各主任等出席午前中は第一部所管事務の諮問を爲し午後は第二部所管事務の諮問に移りたり

▲平井事務課長 慶北道事務課長平井三男氏は土木事務視察の爲め同僚を從へ十二日光州發翌日各所を視察し十四日木浦に向ふ

大邱

▲慶北米穀檢查 慶北道轄移出穀物改良組合調査にかゝる本月一日より十日に至る穀物檢查狀況を見るに農家は比較的割高を唱へつゝあるに拘らず米價下押の爲め出穀捗々しからず然れども米品質は豫想より優等なり今各地檢查所の檢查實績を示せば如左

▲米穀の部

	總數	[illegible]	上格	下格	再調
金泉	三、三六六	〇	三、〇七〇	一九六	一〇〇
倭館	一、六六五	〇	一、三五五	一五〇	一六〇
大邱	二四〇	〇	二四〇	〇	〇
慶山	一、六〇七	三五五	八四四	三六八	四〇
淸道	二、〇九九	〇	一、九四五	一四	一三三
浦項	〇	〇	〇	〇	〇
開浦	一、四三一	〇	一、一三三	一九八	一〇〇
合計	一〇、三七四	三五五	八、七三四	一、一一三	二、二六六

▲大豆の部

	總數	上格	下格	再調
	一、六〇〇	一、四〇〇	〇	二〇〇
	五一四	四〇七	七〇	三七
浦項	四〇二	三六六	三六	[illegible]
開浦	二三〇	二三〇	〇	〇
合計	三、三二九	二、六四五	[illegible]	

▲棉蟲驅除勵行 十三日大邱府廳に於て棉蟲驅除勵行方法に就き協議會を開きたる結果大邱府達城郡を六區に分ち一區每に事務所を設け大邱果樹組合理事當面の責任に當り同所にて驅除乳劑を調製し各關係者に是を配布し十六日より大々的に驅除を勵行しつゝあり

▲迎日水利組合起工式 慶北迎日郡迎日面新所在迎日水利組合は諸般の準備完成し頭取大塚菊次郎氏上京資金調達も滞りなく終了したれば愈々來る十九日を期し盛大なる起工式を擧行すべしと

▲大邱府協議會延期 十五日に開會の筈なりし大邱府協議會は竹崎府尹病氣の爲め十七日に延期せり

▲覆審法院部長著任 大邱覆審法院部長渋谷氏は去日著任十四日各官署に挨拶せり

▲國用書記出張 國用慶北道稅務主任書記は財務狀況視察の爲め十五日より二週間の豫定にて軍威義城青松英陽地方へ出張す

尙州

▲罹災者弔慰金 三月八日慶北尙州郡洛東面一等道路工事中土塊崩壞し尙州郡洛東面城谷里李京道は土中に埋沒せられ即死を遂げ同所崔乃城は同夜遂に死去し尙州面外沓里朴月仙は重傷を負ひ生命危篤なるが尙州郡廳員三十四名は罹災者に同情し金十九圓四十錢を醵出し前記の遺族に對し吊祭料として惠贈せしが尙ほ尙州郡廳に於ても道路工事費より遺族に對し其々十圓乃至十五圓を附與せんと目下手續中なりと

▲學校組合起債 尙州學校組合にては本年二月一日を以て起債許可を得慶尙農工銀行尙州支店より利率九步の約束にて千五百圓を借入することとなり居れるが今回愈々現金の受渡を了したり

▲組合吏員任免 尙州咸昌學校組合吏員藤田次氏は家事の都合上客年十月二十日を以て辭任したるが後任として本年二月十五日附鈴木愛二氏任命事務引繼を了したり

元山

▲築港土砂運搬 元山築港の近況を見るに甲種荷揚場に於ける工事は豫定の如く進捗中なるが過般元山澤井造船所にて製造中なりし土運船の完成と同時に同船を以て目下赤田川尻よりの土砂運搬に從事せしめ居れり該土運船は兩側面の開放自由にして豫定の地點に達し停船するや兩側を開き積載せる土砂を吐き出し得る構造にて埋築用としては頗る妙を得たるものなり

▲海陸連絡道路 昨年末より工事中なりし陸軍運輸部附近の海岸より本町四丁目に至る海陸連絡道路工事は今回漸く完成するに至りたれば近く之れが檢査を了へ本月下旬より砂利撒布に著手の豫定なり

▲漁業不振原因 既報の如く元山近海にては客月中旬突發的鰊の豐漁ありたるのみ其後忽ち漁況斷絶し漁業界不振の狀態に陷れる原因は即ち既に明太漁期を經過したると一方海底に於ける海水溫度の餘りに低溫なるに在り客月上旬の二、二同中旬の二、〇に比し現今僅に〇、六を示し居るが爲め從つて鰊等の回游を見る能はずと云ふされば客月豐漁當時の如く海水溫度の昂騰を見るに至らば再び漁獲開始せらるべしと

鐵原

▲上林山林課長は視察の爲十三日鐵原著一泊の上北行列車にて平康に向ふ▲若見侍從武官一行は北鮮駐劄部隊の慰問を了し十三日午後二時半鐵原驛通過龍山に向ふ

漣川

新設したる漣川在鄉軍人分會は正會員四十餘名にして分會長は後備步兵少尉荻村謙一氏を推選し十日陸軍記念日をトし楊州憲兵分隊長吉田中尉臨席の上盛なる發會式を擧行したり

平壤

▲府豫算諮問 大正五年度平壤府豫算は其後緊縮を加へ編成削減中なるが愈々兩三日中に出來するを以て來る十八日府協議員を召集し諮問會を開くべしと經常臨時部合計總額十二萬圓內外なり

▲兩府條例改正 平壤府にては新稅特別戶別割を設定すべく府條例を改正し道廳に認可出願中なりしが道廳の審議終了したるに付十四日之れを總督府に進達せりと尙ほ南浦府家屋稅の整理を主眼とする同府條例の改正案は目下道當局にて審議中

▲製莚講習會 客月來平南各地に於て開催中なりし米產地の改良製莚講習會は此程終了せしが成績頗る良好なりと

▲平南のアンペラ 平南道に於けるアンペラ製造の年額は七萬六千九百枚にして內自家用三萬二千七百枚販賣用四萬四千二百枚を算し此の農家收入一萬二百圓に達する由此後尙ほ年々增加すべし

▲千萬足の草鞋 草鞋の製造に關し平南當局の調査を聞くに一年間の製造高は八百卅四萬足にして內自家用約七百萬足販賣用百三十四萬足二萬八千圓內外に上る由

◉安東縣より

◉安東通常民會 大正五年安東居留民會通常會は來る二十日午前十時安東公會堂に召集のことに決定し十三日各議員に召集狀を發したるが今期の民會に提出さる可き大正五年度民團歲入出總豫算案は

歲入經常部金五萬一千四百〇五圓同臨時部四萬二千八百十九圓歲出經常部五萬四千六百二十四圓同臨時部三萬九千六百圓合計歲入出共金九萬四千二百二十四圓

にして之を前年度豫算に比すれば九千七百四十四圓の減少を示せり

▲十年間の在留者 其筋の調査せる所に依れば去る明治三十九年當地日本市街創設以來の在留邦人は左記の通りなるが其內四十三、四十四年の兩年に到りて著しき增加を示せるは當時線路改修工事關係者の入込めると一は當時の景氣に釣込まれて各方面よりの移住者激增したるに因るものなり

明治三十九年	四千六百三十二人
同 四十年	四千四百六十七人
同 四十一年	四千四百九十一人
同 四十二年	五千七百〇四人
同 四十三年	六千二百五十八人
同 四十四年	六千八百八十九人
大正元年	六千五百四十九人
同 二年	六千四百三十八人
同 三年	六千三百二十八人
同 四年	六千百六十人

▲兒童宿舍閉鎖 安奉沿線より當地小學校へ通學する兒童の爲に開設されたる安東滿鐵兒童宿舍は小林訓導專ら之が監督撫育の任に當り爾來既に七年の星霜を閱したるが滿鐵にては今回連山關及び雞冠山等の各地に高等小學校を新設し來る四月の新學年より授業を開始することに決定せるに依り同方面の兒童は自然當校に通學するの必要なく居留地若しくは其附近の小學校に入學し得る便宜を得るに至れるを以て前記兒童宿舍は愈々本月限り之を閉鎖することゝなりたり

回海雲臺より

溫泉地なる海雲臺に於ては既報の如く靜岡縣依田治六氏同地大部分の敷地を買收なし從來の建築物を取毀し改修に從事中なり而して釜山同地間の交通には屢々人馬車鐵道の計畫なりと因に同所旅館は矢張依田氏の個人經營なりと

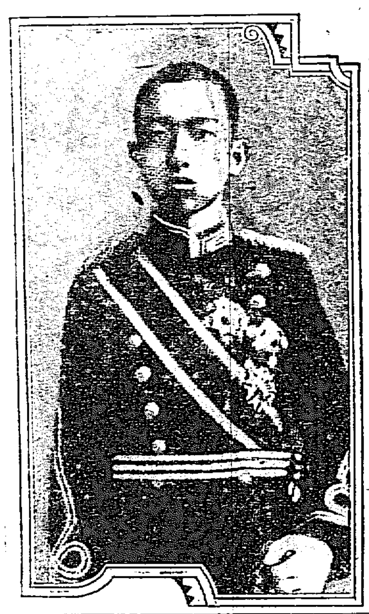
人事消息

▲神戶次郞氏(咸興第十一聯隊長步兵大佐)十四日午前釜山著直に北行す
▲大曾小一郞氏(龍山第三十五聯隊長步兵大佐)同上龍山へ
▲香谷彌輔氏(步兵第七十四聯隊長步兵大佐)十四日午後釜山著北行
▲ヘフラー氏(京城駐劄獨國副領事)十四日夜內地より歸任
▲大立目小一郞氏(第三十九聯隊長)聯隊長會議の爲め上京中の處十四日夜歸龍
▲王置鐵次郞氏(野砲兵第九聯隊長)十九日頃羅南より入京の筈
▲太田格府氏(騎兵第九聯隊長)龍山なる騎兵中隊檢閱の爲め羅南より入京
▲飯島吉州金融支配人 十四日午後南大門驛發列車にて東京へ
▲石村第一銀行支配人 同上
▲ケ警視 十五日新義州へ赴任
▲朴警視 十五日元山へ
▲勅使河原平壤地方法院長 十五日朝釜山發赴任
▲永谷平壤憲兵隊長(海軍大佐) 十五日午後七時五十分南大門驛著入京龍尾(投宿の筈)

青島でも重石熱

▲朝鮮のタングステン熱が山東省にも及んで往つたと見えてタングステンは水晶山にあると極つて居るといふので山東省西部の省界嶧縣は有名な水晶の產地なので昨今青島から同地方に採礦に出掛ける冒險家が夥々あるとは面白い▲タングステンより尙も高價な輝水鉛は一噸數萬圓に上る貴重なものが朝鮮で發見されたといふので▲山東にも鉛の產地が大分あるから乾度輝水鉛もあるに相違ないと之れにも目をつけて居る山師があるとは早い話だと青島よりの便り

(第三版) 時間表 (南行) (北行)


東宮の御英姿――軍國の少年の武を閲させらる

皇太子殿下 少年團御閲兵
沼津御用邸西方森林中の遭遇戰 渡邊陸軍少將演習を統裁す

沼津少年團五百餘名は去る十二日午後一時より皇太子殿下台臨の下に沼津御用邸附近に於て特別演習を擧行せり先づ各中隊は午前中に豫定の集合地に集まり晝食後其々集合地を發して御用邸西方の松林に到着團長渡邊少將の閲兵式あり同少將の戰鬪開始の號令にて攻防兩軍に分れ戰鬪準備を整へ(第二の號令にて兩隊元に進軍を開始したるが兩軍共昨年來訓練されたる斥候、信號、傳令、自轉車隊等各種の兵員を放ち策戰却々巧にして補充隊の用兵術、進軍及び退却の行動軍需品補給、遊撃、地點奪還等の機敏なる行動は參觀者をして舌を捲かしめたり戰鬪は玆に闌となり將に白兵戰に移らんとする瞬間休戰の號砲に演習を中止し其れより渡邊團長の講評あり斯くて殿下の御前に於いて分列式を行ひたるが此間殿下には始終御機嫌麗しく御覽あり午後二時還啓相成りたるが本邦に於て少年團の閲兵を行ひたるは是れを以て嚆矢とすさて(東京)

山野に滿つる春光
若見侍從武官視察を終へて歸東す

自分は去月十一日入京以來親しく南鮮及び北鮮方面を巡視し猶は京元線によつて咸鏡道方面へも向ひたる上の

■北は國境圖們江畔

の會寧まで赴いたのである、今日無事任を終へて此の列車で歸東するのは衷心甚だ愉快に堪へざるところである、這回の巡視は實に聖上陛下のありがたき思召を朝鮮駐劄の各守備隊に傳達する爲めの旅行であつたが陛下が常に

■ありがたき大御心

を朝鮮の土地に注がせ給ふは洵に忝けなき事である、朝鮮駐劄軍は京城龍山の如き土地に於ては格別內地のものと變りは無いが北鮮地方の奥地に往くと隨分不便利な土地も尠なくない、那麼僻地で軍務にいそしみつゝある軍人に對しては洵に同情に堪へぬ次第であるが併し自分の見るところでは各地の守備共

■何れも衞生狀態が

良好であるので此の點に於ては內地よりも遥かに當方が勝れて居るかと思ふ、自分も曾て十年許り以前の日露戰爭後に於て京城に一箇年間、咸南道咸興に一箇年間、都合二年の朝鮮生活を送つた事があるから朝鮮の事情には稍通じて居るかと自信し居るが這回久しぶりに渡鮮して見ると

■全然昔時の面目を

一變して居る先京城を始め咸南の元山、咸興地方などもむかしとは比較にならぬ程の進歩を示して居るが北の清津港なども自分の居た頃は彼麼立派な港ではなかつたのである、それに又誰れも言はれる事だが半島の山が青くなつたのは新らしい朝鮮の象徴とも言ふべく第一に如何なる田舍の小部落に行つて見ても家の

■周圍が非常に清潔

になつて居るのは慶すべき事である自分は這回親しく巡視したところのものを歸東の上 陛下に伏奏せなければならぬが先づ一箇月に餘る巡視を終へたのは大に愉快とする處である(京釜線車中にて)

土風呂で蒸殺す

平安南道龍岡郡大代面の路傍に六日午前十一時頃年齡二十內外の鮮女の屍體遺棄しあるを發見し其筋に急報せし者あり係官出張檢視せるに屍體は汗井(鮮式の土風呂)に入れ窒息せしめしものゝ如く其の上部は暗黑色に焦げ臀部以下は稍赤色を呈し四肢は強直し火傷の跡點々と見え蒸し殺せし疑ひあるを以て目下犯人並に屍骸身許探中の由(平壤)

小火、小火、小火
一日に三度=温突から

十四日午後二時半京城黃金町二丁目趙文相方温突より發火消防出動即時消止む同日午後四時半旭町一丁目尾崎興一方屋根上の庭に隣家日の出湯の煙突より飛火して大事に及ばんとせしを直ちに消止む又同日午後六時諫洞卅五番地李捺勉方より出火常備消防出動同十五分鎭火せるが温突の焚口の漏煙より松葉に燃え移り屋根裏を燒失したるのみなり

十日間の風呂賃金五百圓也
鹽が二十俵手水紙が四萬枚=一日休めば千圓の損=禿頭を痛める會計の年寄『土俵でマラソン競走』

合併相撲の二日目はまた雨の爲め休場した、何しろ一千人の大きな男が喰ひ潰すのだから一日休めば大變な損失になる、力士の宿泊料が

▲朝晩の二食で 四十二錢、晝食は相撲場で焚出をやるが若し雨が降ると宿屋へ晝食料十八錢を支拂ふことになつてゐるから、雨の日は一日六十錢、宿屋住ゐでない大阪力士も雜用は同じだけ貰ふのだから、一日の食費だけでも六百圓色んな費用を計算すると一千圓は要る詰り雨の日は相撲のある日より晝食料だけでも餘計に要る譯だから

▲雨は大の禁物 だが、それでも初日には口ハ客を除いて五千人足らずの入場者があり其收入七千圓だつたと云ふから今のところ二日位の雨は心配するには當らぬ、だが多勢といふ者は微細な事でも馬鹿にならぬもので、朝の稽古上りの風呂札が毎日一千枚で二十四圓要る、晝は晝で相撲場の近所の禁湯、小澤湯、阪町の潮湯他二軒の

▲風呂屋を買切 りといふ有樣だから入浴料だけでも十日間で五百圓そこへ雨でも降られるとまた增える他は推して知るべしで何しろ土俵でふり撒く鹽が一日に二斗以上、使ふ手水紙でも初日に四千枚を使つてゐる、それから力士部屋の蹴だが、こいつが又頗る大きい、五年前の大合併には百九十俵要つたが、今度は少し暖かいので雨らも要るまいけれど會計係の年寄は斯んな事にまで胸の中はヒヤ〳〵、禿頭が一層禿るおもひ

▲藝者の相撲狂 南地大和屋の金太郎と云へば浪花で匿れの無い角力狂東京で云へば神奈川の魚屋に比す可きもの、歳の頃なら二十七八大庇の厚化粧に紫縮緬の著物もケバ〳〵しく正面に陣取つて飲む食ふ喋べるヨイショと兩手を上げる妙な手附をして獨り馬力を取る、行司の口眞似をして見合つて〳〵と怒鳴り節をつけて呼出しを氣取る等場內を壓倒する事非常、何んぼ何んでもこんな猛烈な藝者は東京でも見られぬ

▲始めての珍相撲 小常陸に小兵な時ケ嶽の取組は前代未聞の珍相撲で有つた小常陸の突張が外れたので時ケ嶽之は堪らぬと背中を向けて土俵の廻りを逃げ出し行司木村左門が邪魔ッけだと許り突き轉がしてエッサ〳〵と逃げ出した、小常陸はあの丸い團子の樣な身體でヨチヨチと追つかけ此處にマラソン競爭が初まりぐるり土俵を一と廻りして四つになり小常陸にギユ〳〵と押しつけられて時ケ嶽の負け、小常陸曰く『乃公は生れてこんな角力取つた事ネーや駈けつこぢや――乃公も未だ甞て下だよアハ……』(大阪特派員發)

京阪合併大相撲 二日目殊勳力士
(右より加古川に勝つた栃木山、大錦に勝つた黑瀨川、西の海に勝つた時の矢)

警官呆れ返る
夫婦喧嘩から狂言自殺

京城忠信洞安昌烈妻鄭姓女(三二)は十四日午前九時頃自宅にて苛性曹達を服用したりとの急報に依り鍾路署より警官醫師出張檢視せしが別に苦悶の模樣も見えず無論生命に別條なければ警官も呆れ返り取調べの結果夫婦喧嘩の末狂言自殺を企てたるものと知れ一應說諭を加へし上夫に引渡したりと

身の破滅も女故
主家より金品を窃取す

平北新義州府敷町生れ元京城櫻井町一丁目早川某方雇人通稱山本文吉事文仁錢(二二)は二月十五日頃より三月五日迄主家より前後四回に衣類雜品數點(百四十圓)を窃取して櫻井町附近を徘徊中高陽署の刑事に取押へられたり

子供は四十圓
珍しい幼兒引渡の訴訟

全州完山町居住金允長は大正町七丁目居住朴德有と親しき間柄にて常に出入しつゝありしが昨年九月三日金は商用上金錢の入用に迫りたるより妻の朴姓女を朴德有方に至らしめ金五十圓の借用方を申し入れしに朴は四十圓を貸し與へ殘金は十六七日頃貸與すべしとの事に朴姓女は約束の十七日に再び朴德有の宅に立ち寄りたるに朴は前日と態度一變し朴姓女に向けお前の家は貧乏にて急に返金の見込もなければ其の子供を抵當に預け置けと朴姓女が脊負ひ居たる長男の金翔釗(五ツ)を無理にも奪ひ取りしが金元長も其の不法に立腹し數回子供の引き渡しを要求したるも朴は應ぜざるより朴を相手取り全州法院支廳に幼兒引渡の訴訟を提起せり

石で顏を毆る

京城和泉町孟宗植(二五)は二月十八日同町路上にて知合なる金致玉に出會ひたる際挨拶の言葉が粗暴なりとて口論の末小石を以て同人の顏を毆打し治療一週間を要する負傷をせしめたる爲め京城地方法院にて笞九十の處分となる

元山の新燈臺
▽近く點火實施されん

元山灣內に新設せられたる石根礁燈臺は去る十一日本府より小島技手來任と共に燈具取付に著手したれば近日完成を告ぐると同時に點火實施するに至るべし

軒の下で往生

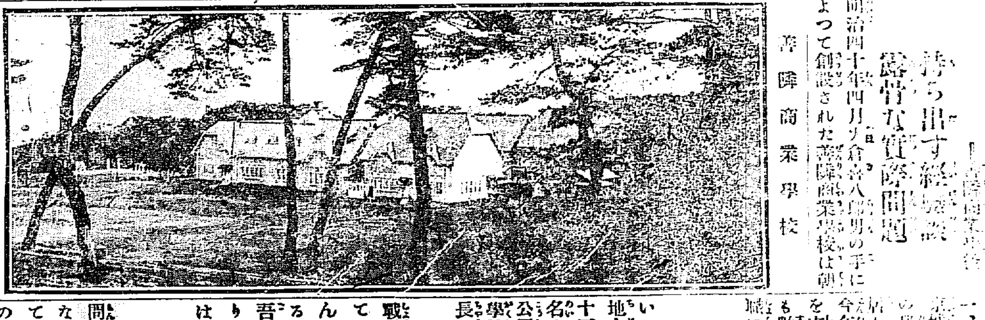
京畿道漣川郡々內面邑里金才奉方の軒下に三月十一日午後十二時頃同里生れの乞食李氏(七二)が行倒れて死亡し居るを發見し所轄漣川分遣所より所員出張檢視せし所老衰の爲め途に絶命せしものと判明し屍體は里長に於て埋葬せり

委託品を橫領

京城府南門(?)李明植(三六)は黃金町五丁目林某より昨年十一月頃眼鏡一個の入質方を依賴され鍾路通林某方へ一圓五十錢に入質して內金三十錢を橫領し又四月中同人より入質方を依賴されたる眼鏡一個(一圓四十錢)を橫領し費消したる爲め鍾路署に檢擧さる

懷しき母校 春は樂しき同窓會

簿記棒と算盤
持ち出す經驗談 實際的な實際問題


善隣商業學校

明治四十年四月大倉喜八郎男の手によつて創設された善隣商業學校は朝鮮內地を通じ私立の商業學校としては最も有數なものゝ一つであります開校以來昨年までに出した卒業生は第二部(鮮人)が二百名、夜學專修科(內地人)並に同高等科を卒業した者は二百三十五名です

□並に簿記棒と算盤に親しんで修學した丈に銀行、會社、金融組合、商店などに就職してゐる者が多く第二部の卒業者二百名の就職先を調べて見ますと銀行が七十九、會社、金融組合、商店が五十八、官公署及び學校が三十、上級學校に入つた者が三、自家に在つて營業してゐる者が十六、死亡其他が十四といふ事になつてゐる

◇朝鮮の銀行中 同校卒業生の居ない所は百三十、第一、京銀、十八の各銀行位のもので京城市中の各銀行は勿論の事、地方の農工銀行などには全部行き渡つて居りその成績は一般に良いさうです今年の卒業生二十二名の內にも銀行を志望する者が多くありますけれど數に限りのある事ですから多少就職に困難を感じてゐる譯ださうです

□しかし昨年までの卒業二百名中百六十七名が職を得て居るのはいゝ成績であらうと思はれます、內地人卒業生を出す夜學專修科二百三十五名の內でも死亡三、無職三十四名を除く外は何れも銀行、會社、官公署に職を得て居るさうです、此の學校の同窓會では矢張り校長が會長となり卒業生の內から幹事を出し職員になつてゐる者が常任幹事になつてゐるのは別に不思議でもありません

◇卒業生にして

が春秋二季の會合には就職に關する各自の經驗談だの、職業に對する吾人の希望、覺悟といふ樣な事を語り合ひ、その會に列席した職員からは職務に當る心得

□處世上の要訣といふ樣な可なり實際的な そして實際的な問題に就いて將來を奬勵鼓舞する樣な話がありますそれから會食に移つて更に打解けていろ〳〵の話があるのです、同窓會の機關雜誌としては今のところありませんが年に二三回位學校に於ける主なる出來事、卒業生の異動などを記した刷物を配布する事になつてゐるさうです

東京府下の大火

十二日夜八時四十五分東京府下千駄ケ谷穩田理髮店大正軒事津羽本猶藏方二階より出火せる上澁谷三一六番地を燒拂ひ千駄ケ谷穩田にて全燒十六、半燒一、上澁谷にて全燒十二、半燒五を出し九時……ず斯る處に近衞四聯隊より一小隊及び輜重兵大隊より約五十名の兵士馳付け佐藤中尉の指揮の下に穩田川……

朋輩の衣類を

長崎縣壹岐郡香椎村生れ中上龜吉(二二)熊本縣天草郡宮田村生れ吉嶋崇至(二二)……せられ各三年間執行を猶豫さる

巡査講習會終了

京畿道警務部にて二月十一日より管內の各……事務を講習すべしと

連絡船上陸客

十四日午前……

十四日午後釜山入港壹岐丸一二等客
一等(六名)伊藤久米造、……朝吉、香谷榮輔、田中忠二郎、片崎俊雄、ヘフナー
二等(二十名)竹下政雄、田中與太郎、大和興太郎、瀧澤武藏、同よし、同宏作、稻葉伍一、淺川市太郎……

天氣 (三月十六日) 曇一時晴れ

皮膚病專門 醫師練習員募集廣告
當病院長川村恒夫今回滿鮮各地漫遊ノ途次左記項目ニ付
あざノ種類(……)
一市一郡一名乃至二名ヲ限リ醫師ニシテ練習希望者ハ來ル四月十日迄ニ申込相成度其順序ニ依リ採用ス追テ日ヲ期シ便宜著名ノ地ニ出張シ實地練習ス
大阪西區新町通二丁目 電長西六七六
川村病院

桑苗魯桑接木及實生販賣
持合苗木根廻り一寸以上、同八分、同七分以上
右現品大田に有之候間直ちに發送出來候
京釜線大田驛(電話百〇七番 電略ト)
蠶具一式卸
東洋蠶業株式會社出張所

四月號 トモダチ
文學士寺田精一先生監修 毎月一回發行 一冊十二錢稅五厘 六冊郵稅共七十錢
◎幼ないお子供のトモダチとして大好評の繪雜誌
(附錄)手工用の面白い本と机を添ふ
東京麴町富士見町 一二葉社 振替東京三一三六三番 電話番町四〇五八番

タングステン鑛、水鉛鑛其他鑛石數量を問はず高價買入申候
京城旭町一丁目百三十番地(御大師前)
中川湊
電話一六二四番

富の道しるべ
山縣五十雄氏 村上唯吉氏 共著
四六版八十六頁 定價拾五錢 郵稅二錢
諸君は安樂幸福なる生活を送るを希望せらるゝならば今日直に二合の酒若くは一包の敷島を節して左の書を讀まるべし
徒手空拳一朝にして巨萬の富を致すが如きは常道に非ず天才に非ざれば能くせざる所にして著者も亦之を說くの資格あるなし然れども富とは畢竟物足りて人給し、現在を樂み未來を憂ふるを要せざる狀態をいふ。此幸福は如何なる人と雖も平常の用意と處世法の宜しきとに由り、之を獲取するを得べし。此書の說く所は即ちこれ也、文は平易通俗にして、事例は頗る趣味多し
賣捌所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

謹告
一保險金五百圓也
右は故植野すて儀蓬萊生命保險相互會社と契約致居候處今般死去致候に付頭書の金額同社淸州代理店靑柳八百造氏を經て受領致候間此段契約者各位に謹告仕候也
大正五年三月十一日
淸州本町三丁目
保險金受領人 植野金藏

卷莨 品質本位
君が代 定價五錢
三笠 定價三錢
鷺島 定價二錢五厘
前之園商會 大邱電話長二四一番

春を訪ねて

南山公園あたり

歡は木の芽にも＝目覺た心地＝土が乾いて陽炎が燃て＝柳の梢が煙てある＝日當の好いベンチの傍にて

流れる水、枝に吹く風、小鳥、いろ／＼の聲や、様々の雜音などまでが合唱して

＝美しい音樂＝を奏し始めた。『春が來た！』と――麗やかに芽ぐんで來た梢や、土を押し上げた草の芽や、有らゆる生ける者共が、永い間の眠りから心持好く目を覺まし大きく伸びをして『春の力』を感得して動き始めた。零下十度、十五度と云ふ

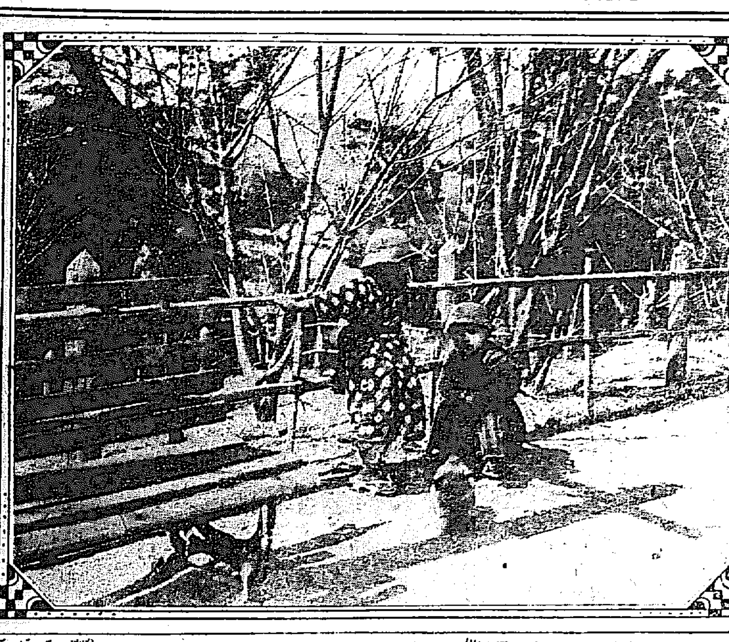
＝寒さに虐げ＝られて毎日毎日肌を斬る樣な風に苛められて居つた吾等は、この柔らかな日ざしと肌さはりの快い風と木や草の芽をどんなにか憬がれ戀して居つたであらう！！北寒の地に住んで居る人達が春に對する憧憬とそれに逢ふたる歡喜とは常緑なる

＝南國に住て＝居る人達が到底、想像も及ばぬ處の幸福であらう。春は我等の戀人である、よしその装はまだ充分に成らなくとも、柔らかな其の姿を開き麗はしい其の姿を見てはもう踴躍する吾等の心は抑へる事が能きぬ程である。春よ吾等は汝が美しき装を凝して靜かに自から歩み來る事の

＝遲々として＝待遠しさに堪へられぬのである。南山の公園に登ると、若い春は早くも既に山の上にまで登つて居る、記念碑の邊りは心持よく土が乾いて池の水の上には陽炎が燃えて居る。爪先上りの路を進むと枯草の中からアネモネ草の若い芽が力強い緑の目をあげて居る。

＝氷が解けて＝流れ來たのであらう濁の小川の水が薄く濁つて水際の馬芹の芽を濡しては流れて行く。美人茶屋あたりではしきりに春の化粧をして居るコートだけ脱いだ若い散歩の人達がチラ／＼と歩いて居る。松の新芽も少し延びて、柳の梢は雲の樣に煙つて來た温和な色の市街の上を覆ふて此の下の町の容は和やかな春を思はせる、長い／＼かげろふが菀の上に靡いて居る日向りの好い

＝ベンチの前＝で『武ちやん、此の犬は、何んと云ふ名？』『それはポチと云ふのだよ』『そう。ポチかあいいポチ／＼。暖いだらう。ヤアちやん。ポチが立つた儘で居眠りしてらア、面白いねエ』一群れ遊ぶ小供の聲も長閑である。



うらゝか＝『ポチ來い／＼』（南山公園のロハ臺にて）

◎春のかざり花 色彩の調和が大切

三月の花では梅桃櫻椿躑躅木蓮錦香花山茱萸柳木瓜ヒナギク回青橙、西洋花では櫻草プリムラ、カーネーション等ですが、生花専用のものと投入や盛花用のものとがあります。

□投入や盛花 盛花式の花型が今まで我國には無かつたかと申すと、必ずしも然うではありません。池の坊には古來錦活と云ふのや、又立華を横にした砂活と云つて、今日の盛花以上に立派な完全したものがあつたので

□生花は我國の花卉裝飾法として實に發達して居りますが、多くの花の中には因襲的の花型に囚はれて到底野趣を味ふことが出來ぬ不適當なのもあります。又西洋室や卓上には未だ不調和な點もありますので、床間にも机上にも應用が出來るやうにと盛花の必要が起つて參つたのです。盛花を研究なさるには

室内にある 他の裝飾品や花と花卉の配合や色彩を調和させねばなりません。生花は床に活けて離れて見るものですから、姿型に重きを置いて居て、所謂暗示的ですが、花の方は正覺的です。要するに近くで見るものですから

艶麗である のがよいのです。それだけ自然美の内にも色彩を主として居ますので、其調色に依ては遠際のある花も出來ます。從つて目や手よりも腦を働かせる必要がありますから、繪畫的智識のある方などは頗る早く發達し得られます。

東京胃腸病院醫員 山内貞二氏診療に應す 京城南大門通三丁目 胃腸醫院（電一六五九） 入院隨意 院主 佐々木杏造

◎爆彈事件又擴大す 第二の嫌疑者

大隈首相要撃爆彈事件被告人新聞の結果第二の有力なる嫌疑者逮捕せられたり（東京電報）

△辯護士 某辯護士は西澤と詐稱し某大官狙撃の爲製造彈を三國に買取り脅喝發覺し第二爆彈事件として其筋に於ては嚴探中也（京城電報）

演藝

△如雲千秋樂の語物 浪花節に開演中の如雲は愈十五日夜限り打上げさるべくその語り物左の如し

△五郎正宗（正雲）△金比羅利生記（燕之助）△櫻川五郎藏（雲照）△戸谷新右衛門（如月）△鐘の百傑（むら雲）△水府義公（若春）△空中飛行機、探偵奇談二席（雲路）△熊王丸武士の意氣地二席（如雲）

△壽座 十六日より三輪貫一行にて開演

台所その日

△鯛の黄金蒸 鯛を三枚におろしてきめの切身になし酒と醤油同割の中に暫く漬け置き、別に蒸籠の中に竹の皮を敷き、是へ前の切身を乘せ、別にほうれん草を茹で細かに切り、是れを切身の上にかけ猶玉子を茹て黄身だけを裏漉にかけ是を又乘せて蒸し、あたゝかき處を皿へとり盛める

商況

債券現物特電

十五日東京川來値段（前日との比較）

東洋拓殖	[illegible]	[illegible]
日韓瓦斯	[illegible]	[illegible]
朝鮮銀行	[illegible]	[illegible]
朝鮮瓦斯	[illegible]	[illegible]
南滿鐵道	[illegible]	[illegible]

東京公債直取引（特電）

十五日川來値段（前日との比較）

五分特別	[illegible]	[illegible]
五分利	[illegible]	[illegible]
一四分	[illegible]	[illegible]
二回四分	[illegible]	[illegible]
甲五分	[illegible]	[illegible]

深川在米特電

十五日現在高

肥後米	[illegible]
築前米	[illegible]
内地米	[illegible]

東京期米特電

[illegible]	[illegible]	[illegible]

大阪株式特電

大阪株式	[illegible]	[illegible]
東京新株	[illegible]	[illegible]
大阪米穀	[illegible]	[illegible]
日本郵船	[illegible]	[illegible]
大阪商船	[illegible]	[illegible]
東洋汽船	[illegible]	[illegible]
同	[illegible]	[illegible]
合同紡績	[illegible]	[illegible]
和泉紡績	[illegible]	[illegible]
京都瓦斯	[illegible]	[illegible]
神戸瓦斯	[illegible]	[illegible]
宇治川電氣	[illegible]	[illegible]

大阪三品特電

十四日前場 [illegible]

大阪期米特電

三月限	[illegible]	[illegible]
四月限	[illegible]	[illegible]
五月限	[illegible]	[illegible]
六月限	[illegible]	[illegible]
七月限	[illegible]	[illegible]
八月限	[illegible]	[illegible]

朝鮮物産特電

馬山改玄	[illegible]	[illegible]
群山改玄	[illegible]	[illegible]
木浦改玄	[illegible]	[illegible]
同	[illegible]	[illegible]
仁川改玄	[illegible]	[illegible]
釜山	[illegible]	[illegible]
仁川	[illegible]	[illegible]

雜報

◎期米更に好調

◎燐寸協定成る

◎煉乳暴騰す

互に同一歩調を取る

甚しき下値は望み難し

一二圓方の値上

◎精米チリ安

各精米所の苦痛

次第に加はる

引下げられたり 十一圓五十錢迄

◎砂糖は不味

互に競爭的賣

込み氣味

◎麥粉氣甘し 沈靜の市況

下關相場

各地商況

◎釜山（十四日穀物）

京城正米

京城雜穀

南大門の廻穀

仁川現物市場

仁川期米

▲十五日前場 三錢安の入電

十四錢と高移り 大阪四節五

更に高報入る 大阪五節六十一錢

時高入電に跳ね 六節九十六錢と臨

市場零聞

△前場伸び惱み

大阪暴騰に引替へ 伸び惱み

目先利喰賣物多く

△前場の手振

田中 [illegible]

△前場玉先れし

三圓二三十錢

△今大に賣る

能く買ふ

揃つて賣ふ

續て反撥

愈反入手

大阪の暴騰に一面正米

依り大に反撥

三巴仲買店

仁川米豆取引所

十五日の五月限

北濱たより

△アルカリ株

△京阪電鐵株

謹告

小生儀先般來京都帝國醫科大學に於て皮膚病。花柳病科。外科一般の研學中の處今回歸京一般患者の診療に應じ可申候

京城明治町二丁目 醫學士 鶴田善重 鶴田醫院 電話一九八番

商標 登錄 新田帯革 福岡市土居町一九 合資會社新田帯革製造所 九州出張店 電話七五八番 帯革各種 パッキング ヒッカー 皮革 鐵帯金具 其他工業用諸革 最新の發明 特許綿革調帯 定價表一報次第進呈

熱心誠實に事務を取扱ふ 辯護士 從五位 堀池常作 事務所 大邱府南龍岡町

素人下宿開業披露 ▲客室閑靜、食器清潔、寝具新調設備完全 今般左記の處に於て開業官吏會社員其他の御客様に對し御叮嚀に取扱申可候間御引立願上候 京城太平通二丁目 電話二五六三番 田浦屋

時代の要求により創製の營養劑（醫家應用諸症）

最新鉄劑 フエロール 譯名 滋精 應用 體育保全 補血營養

梅毒症應用新劑 沃度フエロール

皮膚病應用新劑 アルゼンフエロール

氣管支症應用新劑 グヤコールフエロール

フエロール及ロール合劑品目

フエロール 大（半月分）一圓五十錢 小（七日分）八十錢

沃度・アルゼン・グヤコール 各種 大（半月分）一圓八十錢 小（七日分）一圓

●賣捌は各藥舗にあり ●賣捌なき地方は本舗へ注文あれ

創業元、大阪東區道修町 藥劑師 小西久兵衛

代理店 京城南大門通 新井藥房 京城太平通 キムラ藥舗 釜山辨天町 大黒藥舗 木浦 木下藥舗 元山港 石田濟生堂 安東縣市場 井上藥舗

本品は實驗に非す最新發見の新製劑なり

故 笑子 葬送の際は御繁用中にも不拘御會葬被成下御懇情の段難有奉感謝候 右御禮迄新紙上を以て略儀乍ら御挨拶申上候 敬具

大正五年三月十五日

池尻萬壽夫

親戚總代 池尻洋平

林文太郎

友人總代 川崎源藏

山田和一

演藝案内

櫻井町 大正館 電話八七三 三月十四日より新寫眞と差替

浪花館 明治町 電話二六〇 浪花節 合同大一座

黄金館 黄金町四丁目 電話二六三七

壽館 壽町 電話一〇五〇 浪花小圓治北海入道一行合同

横暴なる獨軍！ 同情すべき白耳義 勇敢なる英軍！ 白耳義モン市の實戰を背景にせし決死のフヰルム 軍事活劇 戰線 六千尺 見逃す可からざる大戰亂の實況 ●大正館

越後大評定

第百六十席　早川貞水口演

堀田備中守

光圀公備中守の一言を聽き、最と御満足に思召され　光「イヤ其氣性を看拔いたればこそ、汝に頼むのじや、近く進め」光圀公備中守の耳に口を寄せ、暫く何事か仰せ聞けられました　備中守之を承り　備「委細承知仕りまして御坐る」と御前を退り、我が屋敷へ立歸ると御家來の頭立つた者七八名を召され　備「さて明日は殿中にて此備中守正俊、天下國家のため一命を捨つに依り、備中相果てたと承はつても、決して家中の者共、騷ぎ立つては相成らぬぞ、又心中相果てたと聞いたならば、居室の天井に貼り置いたる白封じの一書、之を尾州名古屋へ持參いたし、尾張公へ御覧に入れよ』と夫より奥方、若殿、姫君と御別れの御酒宴、夜の拂曉ともなりますと、登城の支度を調へ越前則重の短刀用意に及ぶ此刀は水戸公手づから下されたる物にて之を以て對手を斬殺せとの御意で御坐います、此方は大手御番所前、未だ夜の明けざるに、下座觸れ制止の聲はげしく大名乘込み來る容子、今頃下座制止の聲は合點行かずと、大手の番は驚いて表を開けて見れば、葵御紋の高張提灯萬燈の如く、眞先に金紋葵の先箱、行列正しく繰込しは、紀州和歌山の城主五十五萬石紀伊大納言光貞卿、第二番は茶熊毛金的金紋の先箱、常陸國茨城郡水戸の城主、水戸中納言光圀卿、第三は會津若松の城主二十四萬石松平肥後守正光公、第四番は上州舘林十萬石、舘林宰相綱吉公、第五番は甲府十萬石、甲府宰相綱豊公、第六番は讃岐高松十六萬石、松平讃岐守頼重公、第七番は江州彦根の城主井伊掃部頭の七柱の諸侯で御坐いますから、番士は何事かと驚いたが、未だ夜が明けませぬから、御門は開かぬ、其内に御太鼓がドーン／＼と鳴ると、途端に御門が一文字にサット開きましたから、順々に御乘込みになり、御玄關より御上りになる、井伊掃部頭は高三十五萬石でも御家來で御座いますから御玄關からは通られませぬ、頓て七社の御諸侯は四代將軍家綱公の御病床の御次の室に控へ、御取次を以て將軍家へ言上いたしましたるは、御嗣君の儀に就き、内々承はり度、御病中恐れ入る儀に候へ共、天下の御大事、御漏らしの程願ひ奉る』將軍聞召され　家『苦しうない、此座へ入れ』そこで御病床御枕頭近く進みしは紀州、水戸の御兩家、他は同じ御家門で、會津、高松、甲府、舘林等は、御敷居の外で御坐います此時紀伊大納言殿まづ口を開き　紀『さて光貞、光圀等言上仕ります、此度上御病氣に付御嗣君の儀は京都へ御手入に相成り、有栖川幸仁親王を關東へ呼迎へ、五代將軍に御直し遊ばすとの御沙汰これ有りし趣き承はりましてござるが、此の儀は上より仰せ出されまして、酒井雅樂頭を以て、京地へ御伺ひに相成りましたるものなるか、但しは雅樂頭が、幸仁親王を以て徳川五代將軍に迎へて然るべきやう申し上げて、京地へ御手入に相成りました儀に隠れありまするか、其邊確と承はりたく御病中をも憚らず罷り出でまして御坐る』

お聞きなさい

▲多額納税者伜の强盜　宮城縣の多額納税者の伜小田某(一)といふ大阪市某私立中學の生徒は同市南區難波新地五番町商見駒太郎が難波驛で切符を買て居る隙に財布を强奪して捕へられた

▲自動車網にかゝる　八日の正午頃横濱港內捜索組合事務所の人夫數名が港內の捜索中に手に觸れた一臺の自動車が網に引かゝつたので大騷ぎとなつたが何故この自動車が海中に沈むで居たかその邊は頓と解らず取敢ず警視廳へ其旨を届け出た

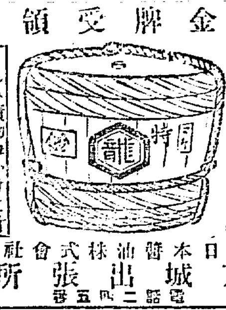
▲地鳴りがして瓦斯噴出　長崎縣東彼杵郡大村德泉河內郷字櫻谷一帶の地は地下が鳴動して瓦斯のやうな物を噴き出しそれに火を點ずると瓦斯と同一の火光を認められるので試驗家に鑑定をさせると多分一種の石油瓦斯で有らうといふ鑑定であつたそこで此の程附近一帶の地面十六萬坪の借區を同村有志者から其の筋に願つて出た

▲塹壕から巨象の骨　この頃歐洲の戰場で兵士が塹壕を掘て居ると大きな象の骨を發掘したそれが少なくとも十五呎の高さを有して居た巨象の骨である事が知れた十六呎の象と云へば今迄に知られて居る最も大きなマンモスの骸骨よりも遙かに巨きいといふ事である

三月十七日九星
舊二月十四日癸丑
本命二黒坤開先貢

▲二黒　親切訓しの事有日新事見合東方は吉　▲三碧　ゆきなやみの事有日新事手控事は吉萬丁寧にせらるべし▲四綠　淺果敢な事有日新事手控種事は吉買物に用心せらるべし▲五黄　せわ甲斐のなき事有日新事手控種事は吉女難失物に用心の事▲六白　歸途の日輪居入學金件名弘求職柴婚禮特許出願等吉▲七赤　一氣呵成の日輪居行商入學求職金談名弘縁組定朋業等吉▲八白　外見美にして內不印の事有日新事手控種事土工は妨なし▲九紫　大功が現す日輪居入學金談名弘家作求職婚禮外國取引願等吉▲一白　歸りの事有日新事手控畜事は吉保證報酬等せぬがよし

金牌受領



一種獨特の芳香と風味を有する點は他に比類なし
さしみ漬物はかけて汁く煮物に用ひて徳用也

日本醤油株式會社
京城出張所
電話二四五番

東京一番で一番評判の高い賞を有する美人となる化粧料
ホーカー液
本品は又復大正四年十二月十五日國産展覧會に於て宮内省御買上の光榮を辱ふせり

名譽金牌於衛生博
ホーカー液の効
▼色を白くし、キメを細かにし
▼アレを防ぎ艶をよくし
▼白粉下、白粉のトキ水に一番よく生來色白く見ゆ
▼子供衆の肌を丈夫にし男子方の剃刀後、朝夕洗面後によく
▼四季の日ヤケ、白粉ヤケを防ぎ
▼香よく香水代用をなし
▼常に缺さず用ひられば毎時美しく若々しき笑顔となる
定價小瓶廿錢、中瓶四十錢、大瓶八十錢
送料內地八錢　滿鮮三十錢
內外到る處の小間物、化粧品店、藥店に販賣す
若し品切の節は直接本舖宛振替又は切手代用にて御注文を乞ふ
近來類似品を賣る不正商人あり御注意の上御發見の節は本舖へ御一報願上候
本舖　東京和泉橋　堀越嘉太郎商店　振替東京二四〇一八番

物價騰貴と
品質の善惡は十二分の注意が肝要ですから兎に角嚴密にお試し下さい。
品質本位
花王石鹸に
限つて如何なる時でも品質に於て純良無上を期して居るのですから相變らず帝國陸海軍、帝國大學、赤十字病院等の御用を承るは勿論皆様が何時御使用になつても
皮膚の化粧衛生には最も御安心です

石鹸試驗法
石鹸を些し削つて試驗管に入れ之にアルコールを注ぎ好く振り混ぜて火に炙れば純良の石鹸は透明となる。若し混合物があれば沈澱し游離脂肪があれば溷濁が見ゆる。又游離アルカリを含むものは此の液にフエノールフタレイン一滴を落せば赤色に變ずる。

花王石鹸 鶴香水 製造元　東京馬喰町　長瀨商會
鶴香水 日本輸入元 花王石鹸 代理店　大阪安土町　大崎組商會

こゑる藥
身體やせて種々療養効なく御困りの方郵券三錢封入申込あれば胃腸を健全にし苦なく身體肥大となる妙藥の說明書呈す
●東京市麻布區三河臺町　小川藥院

月やく
月やくなきに御心配の方は三錢切手封入御手紙下さい身體に害なく通經する良法お知らせ致します
東京神田錦町三ノ一九　境田けい子

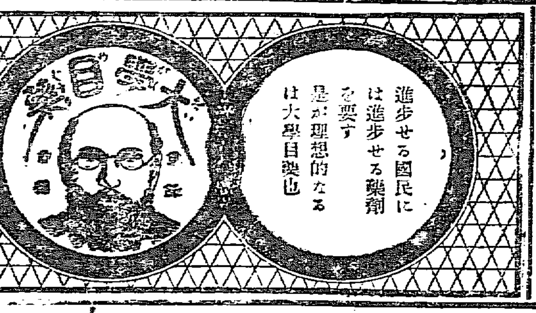
産婆　看護婦　生徒募集
●入學期四月と十月規則書郵券二錢
長崎市私立　長崎産婆學校

質
京城黄金町二丁目（永樂町停留所北入）
堀佐營業所（電話六三九番）

男女粋人の愛用益々盛んに賣行日々激增せる（秘密特許）
新形衛生　ルーデサック
特製品十二個七十錢、廿四個一圓三十錢、六十個二圓七十錢、一錢六十一個
◎一圓以上御注文者に一粋珍景品進呈
◎京都伏見町字京町　岩井屋商會

滋腎　回春丸
陰萎病並に神經衰弱に大効あり
三週間分金七十五錢　送料各二錢
東京銀座　岸田吟香
振替口座四七七番

輕便御宿　高等下宿　御中食所
大邱村上町（元東洋舘跡）
備後屋



進歩せる國民には進歩せる藥劑を要す
是が理想的なるは大學目藥也

醇良清酒
名城
發賣元　今井商店
大邱東城町一丁目
電話三四一番

ヒロツケタラ鏡をどらん色白くなるゲンソ液
小壜二十錢　四十錢
今東京で大評判の白美の元素色黒き顔赤き顔日ヤケおしろいヤケ、アレを防ぎキメをコマカに根本的色白く真の美人美男子となる
全國の藥店小間物化粧品店に販賣す近所に品切の時は代金丈の郵便切手を送れば送品す
東京和泉橋　ゲンソ液本舖　松本藥店

消化と毒けし
仁丹
●一人の病友は二人の新友に優れり　露國俚諺

撞球界の泰斗　王乃一熊著
撞球指南
菊版上製三百餘頁　總クロース美装函入
定價壹圓五拾錢　□郵税金十二錢□
玉突の理論と實際を解説せる初學者の入門熟達者の虎の巻
「東京朝日」評　我が撞球界に於ける科學的知識と技術の卓抜並ぶものなき點に於て斯界の權威こして推さる、著者の最も統一せる述作なり本邦撞球者の爲に他に類例なき好指導こして推薦すべき者なり
發賣所　京城太平通壹丁目　振替京城三〇〇番
京城日報社代理部

京城日報　第三版

十六日朝刊 (夕刊と合せて八頁)

本紙定價 一部金五錢 一ヶ月金五拾錢 郵税共一ヶ月[illegible] 三ヶ月[illegible] 郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行[illegible]
發行兼編輯人 [illegible] 印刷人 [illegible]
發行所 合資會社 京城日報社 電話 [illegible]

▲後場常期寄付十三圓十八錢△中限寄付十三圓三十一錢△先限寄付十三圓五十六錢

▲後場の手振り [illegible]三十六[illegible]反し賣物多く[illegible]と押し六錢と小堅き散會[illegible]各二千二、三百石へ千五六百石全千石賣帶に對[illegible]き散會を告げたり市況は[illegible]と買方も一向活動の振り合なく大阪の變動に連れ小幾[illegible]振り返し人氣は稍動搖し來りたるも何となく[illegible]しき感があつた

▲後場小豆[illegible]十圓二十九錢八錢九錢八錢七錢六錢七錢八錢九

[illegible]米[illegible] 一萬三千五百五十石

[illegible]全北裡里光州[illegible]の輕便鐵道會社は朝鮮總督府規定[illegible]より近く右實施[illegible]

蘇峯雜話　中島生記

二、軍國主義の繁昌

戰爭は勝つまで續くであらうか、此問題は何人も提起するところであつて、又何人も明答することが出來ぬ。否な、大正三年八月以來、日本はおろか、世界列國學者識者と云はるゝ者が、種々な豫言もしたが、其の豫言が一つも當らぬのである。間違つた豫言をするより、寧ろせぬ方が況しであるかも知れぬ。殊に間違つたのは、戰爭の終局といふ時間の問題のみならず、戰爭の結果についての豫言であつた。それは、英米の學者は勿論、其の餘風を享けたる日本の學者論客中にも、戰爭の結果は、獨逸主義軍國主義の全敗であつて、自由主義平和主義の全勝であり、軍備擴張なども、此戰爭を一期限として廢止し、世の中の葛藤は、仲裁裁判で落著し、世界は自から一種の聯邦となるであらうなどとの説を逞しくしたものもあつた。併し今日は恰かもその反對である。斯る間違つた豫言は、書齋的公論者のみならず、實際の政務を掌握したる者の中にも多くあつたのである。例へば英國現在の首相アスクィス氏の如きは、辯護士出身で、頭腦の硬いので有名なる人であるが、彼は白耳義や塞耳維等の諸小國が、其の失へる領地を回復し、小國としての存在を保障せられ、佛國が從前に優る安全の位地を確保し、獨逸の軍國主義が全滅するまでは、劍を收めぬと演説したのである。ところが、其演説あつて以來、殆ど一年有半を過ぎたるも、佛蘭西は北方の最も大切なる要部を占領せられ、白耳義王は佛國の領土內に、名ばかりの政廳を設け、塞耳維も事實上亡國となり、獨逸の軍國主義は全滅せざるのみならず、之を全滅すると廣言したる、英國までが之れを手本として行きつゝあるではないか。辯じ話は姑く措き、戰爭以來、英國の執りたる手段を見よ。壯丁の登錄簿を作りたるは奈何。各製造所に對する强制監督法を設けたるは奈何。徵兵令に至つては、軍國的惡魔の子として、英人が身慄ひして怖れ忌みたるものであるが、それを此の二月より甚だ不徹底ながら行つてはあるが、猶ほ之を踏襲して居るのである。素より今なほ徵兵令[illegible]にす、强制兵役と云うて居るけれども、浪速の葦は伊勢の濱荻で、實は徵兵令の精神を採用したのである。斯く言うて來れば、軍國主義討手の大將たる英國までが、軍國主義を模倣したことになつて居る。されば、獨逸が勝てば勿論のこと、縱ひ獨逸が敗れたればとて、一の軍國主義が他の軍國主義に打勝たる迄で行つて、其勝利の孰れにあるも、軍國主義の勝利であることは爭はれぬのであるではないか。

更にそれよりも著名なる事實は、北米合衆國の態度である。合衆國は、ワシントン以來平和主義であつて、日露戰爭の水をルーズベルト氏が入れた如く、歐洲戰爭の水は、現大統領ウイルソン氏が入れるであらうと云ふことを豫期した者もあつた。然るに今は如何であるか。水を入れぬのみか、亞米利加の商工業者は、何れも戰爭の餘澤を蒙むり、一日も長く戰爭が繼續せんことを祈つて居る。彼等は、口でこそ勝手な熱を吹き居るも、腹の底では、何れもカイゼル大明神として崇め奉つて居るではないか。本來民主黨のウイルソン氏が大統領に選ばれたのも、概して言へば、平和主義の勝利で有た。されば、ウイルソン氏も、去年の國會には軍備問題は急須でないと明言して居つた。然るに昨年の暮以來、彼は頓に態度を一變し、盛んに之を[illegible]を說て居る。人が其の[illegible]論を詰れば、彼は歐洲戰爭十四箇月間の經驗にて自ら進むことを知らぬほどの莫迦者が何處にあると、辯疏して居るではないか。亞米利加の大統領は、何時までも何時までも、唯だ抗議書のみを對手國に提出するばかりが、能事ではあるまいと、大聲疾呼して居るではないか。それも其筈である。先づ第一は、獨逸の潛航艇がルシタニア號を爆沈せしめて、之れが爲めに米人を殺したるを手始めとし、或は米國の軍器製造所の放火事件となり、其他米國と獨逸との交渉問題も、一再ではなかつたのである。然るに、能文なるウイルソン氏が、盛んに抗議書を書くの外は、米國は一指をも獨逸に加ふることは出來ぬではないか。即ち此に於て、彼等も國防の等閑にすべからざることを、始めて自覺して來たのである。其の自覺を以て、直ちに米國が軍國主義に化したりと云ふことは出來ぬが、併し、ノルマン、エンゼル輩の世界平和主義の全勝の表徵として之を歡迎する譯に行かぬことは勿論である。我國として、ノルマン、エンゼル輩の空想者流が、今猶ほ跡を絶たぬのである。英國の如きは、其少數は猶依然個人主義に中毒して、事實の論理を當面に正視することが出來ぬものも尠くない。併し、世界の大勢は、到底爭ふことは出來ぬのである。當初よりの軍國主義は勿論、其の軍國主義に對する對抗者も、亦軍國主義を以てするより外に、適當の手段はなくなつたのである。

それで、戰爭の結果は豫言は出來ぬが、少くとも、此戰爭によりて、一層軍國主義を繁昌せしめて來たといふことが、先づ今日までの事實によりて、判斷す可き確かなる結論であらう。

京城雜筆　山縣生

▲今月は記者にとりて誠に幸多き月なり。ハリス先生は留別の記念として其常に愛讀されたるエマーソン日誌四卷を贈られ、蘇峰先生は來京に際して蘇峰文選一卷を與へらる。書籍其者の價値あるは言ふ迄もなけれど、記者にとりて特に難有く感ずるは兩先生が各々卷頭に自署して親愛の意を明にせられたる事これなり。記者は永久に此二つの贈物を秘藏して傳家の寶となさんと欲す。

▲記者の如き讀書子にとりて書籍の贈物に對する感謝の情は、少女の美衣を受けたる時のそれにも優らん。幾度か開きては閉ぢ、閉ぢては開く、獨り見るも惜しき心地して、親しき者へも誇りと喜びとを以て示し、其愉悦を頒つを見て更に幸福を感ぜずんばあらず。

▲蘇峯文選もエマーソン日誌もいまだ之を熟讀するの遑なし。春光琥珀の如き日、蝸牛廬の縁側に安樂椅子を据えて、之を繙くの樂みを想へば生き居れる事の如何に嬉しきよ、此樂みは恐らくは王侯と雖も知らじ、我は世界に於ける最大幸福人なる也。

▲蘇峯先生の文珠玉の如し、然も先生は『實用以外文章に精神を費したることなし』と云はる。記者の而も[illegible]文家が先生の所謂に裏書するは僭越の極みなれど、記者自身も未だ曾て文章の爲めに文章を書きたることなく、即ち實用以外文章に精神を費したることは無き經驗によりて見れば、先生は我識隨一の文章家たるにも拘はらず、文章家を以て自ら任ずる人に非ざることは[illegible]

▲然も先生の文[illegible]文章の爲めに文章を書[illegible]章が何か爲めにかくは[illegible]にして美妙なるや。[illegible]人は作るゝに非ず』文章[illegible]にして、作らるゝに非ず[illegible]たるは天才なるが故なるは[illegible]

▲然しながら記者はこれのみが先生の文章に於ける秀抜を說明すとは思はず。先生の文の讀者を引き付くる力の源へ離く强きは、其中に藏せられたる深高なる思想と該博なる知識とあるが爲めのみ。文字に富む人は世に多し、佳句を作り美辭を並ぶるに妙を得たる人も乏しからず。然れども惜むべし此等の人々は言ひ現はすべき思想と知識とに貧弱なり。此故に彼等の文章は趣味乏しく、讀者を引付くる力弱く、厭かれ易し。

▲文章は畢竟思想と知識とを載せて之を讀者に傳ふる車のみ。積み載せたる荷物が立派ならば、之を運ぶ所の車の美醜は多く之を問ふの要なし。唯蘇峯先生が其豐富なる思想と知識とを運ぶに用ふる車は又となく美にして且つ雄大なる也。先生の文一世に秀づるはこれが爲めのみ。

▲我等文章の天才なき者は文章に於て先生に及ばんと欲するも及び得べからず。唯幾分にても先生の域に近づき得るは思想と知識とに於てなり。我等は讀書、觀察、思索を勉めて怠らずんば或は先生の影を踏むを得るに至らん。記者自身は先づ蘇峰文選を再讀三讀して、此靈くるなき寶庫に藏められたる思想と知識とを攝取し、消化し、以て我血となし、我肉となさんことを期す。

(11)

六、金 (其二)　東拓理事 村田俊彦

春臺の貨錢論

我國の太宰春臺も、此說に似たることを述べたることあり。即ち其著經濟錄に曰く、

天下を治むるに穀を貴んで貨を賤むるは古の善政なり。先王の道なり。穀は民の食物なり。食は民の天なり。一日もなくて叶はぬ物なり。貨とは金銀錢なり。金銀は勝れたる寶と人毎に思へども、飢たる時金銀を嚙では腹充たず、一椀の粥を啜れば死を免かる、寒き時金銀を山の如く積て其中に居ては煖ならず、一つの布被を著れば病起らず、是金銀は人の飢寒を救ふ物にはあらざるなり、然るに愚なる民は米穀よりも勝れる寶と思へるは、金銀あれば米穀は求め易しと思ふ故也、治世には交易の道いづくまでも達する故に、金銀さへあれば米穀も布帛も即時に出來る、又米穀はかさ高く重きものなれば、もちあつかひに勞煩なり、金銀は懷中に入れ腰に佩て百里千里をも行き、許多の用をたす物なり、是に因て世俗愚人は是に過たる寶はなきと思ふなり、亂世に遇ひ又は後世にても凶年飢饉にて米穀の乏き時に當りて、金銀にて米穀を求め難きことあらば如何せん、是金銀の德の米穀に及ばざる道理顯然なり、古人此理を知る故に漢の晁錯か如きの人文帝に奏聞して穀を貴び貨を賤しむる道を勸め奉れるなり、日本にても古は穀を貴びて金銀を用ふることは後世の如くにはあらざりしと見ゆ、當代は天下の人東都に輻輳し諸侯貴人より庶民に至るまで旅客にて居住する故に萬事を金銀にて行ふ風俗となり、遠國までも同然なり、是より米穀を賤みて金銀を貴ぶこと古代よりも甚し、太平の世に生れて民は食を以て天とすと云ふことを人知らざるなり。

と。蓋し德川時代亦經濟社會の變動未だ甚しからず、殊に元祿天正の頃[illegible]あり、又米穀不作のこともあり、爲に天下の憂に先立ちて憂ひ、世を警醒せしめんとせしものなるべし。

愼戒を要する所

アリストートル、太宰春臺の說は、千古に通ずる眞理なり、現今は經濟組織愈〻廣く、又代用品も比較的容易に得らるれば、金の通用力も亦頗る强しと雖も、時に戰爭あり、時に豐凶あり、時に交通の阻礙あり、豫め圖るところ無かるべからず。美しい哉、少しく遲蒔ながら今日鐵工業、化學工業のみに就いては漸く之れが勃興を唱せらるゝに至りしこそや。獨逸が今日彼封鎖を受けて尚能く其需要を充たし得るところのものは、封鎖を巧に逃るることにも由るべしと雖、亦從來の政策深く慮るところありしにも因らずんばあらず。例へば必要物資の持籠人をして驚かしむるものあるも、一時自由貿易主義を取らんとせしが之を捨て、千九百二年に關稅法を改正する等種々の方法を講せしこと與つて力ありと云はざるを得ず。糧食の如きも若し獨逸にして英國の如き田園即ち狩獵地の狀態にあらしめしならば、假令幾百の麵麭條例を發するも、其窮するや甚しきものありしや必せり。我邦に於ても將來不時の際に對する政策として豈鑑みざるべけんや。

停雲會詩集

無題　雲煙　大道白
雲鬢花顏嫩如麥。常年未嫁有誰知。半窓雁影人何處。紅淚潸々獨起思。
之亭曰　才思婀娜

達摩　同　人
瓊博運來高興西。兒童作佛亦非拙。石不二法門微。雪山達摩豈是空。
之亭曰　自有儀鉢門法

新年有感　同　人
千門萬戶鎖神烟。把醉居然卯酉天。笑語貧無物。數莖添得鬢邊年。
之亭曰　起意得趣

鷙　撫松
搦翁遠山春意生。雪消氷釋聽溪聲。芽草樹寒雨。一鼓輕雷萬蟄驚。
之亭曰　穩精

乾鵲　同　人
心中有待悄憑欄。朧雪消殘錦帳寒。得知來傳喜事。今朝和靄鵲鳴乾。
之亭曰　第二用朧雪二字照得月令不是尋常下字

無題　安往居
闌嬌蕊鬪弄春痕。芳渚疑聞雜珮喧。有約不知歸改路。倚欄猶自愛黄昏。

撫松席上唱和
春寒料峭地爐煮酒　夢遊
一塵無染得身安。隙地相逢把臂歡。莫道仲春風日惡。地爐煮酒不知寒。

同　雲煙
庭前瘦屈老梅蟠。屋後嵯峨積雪蟠。料峭春風吾一歎。爐邊煮酒不知寒。

同　撫松
槎枒梅影映欄干。玉蕊未殘瓊雪殘。媛酒欲催詩景趣。東風料峭入懷寒。

同　之亭
典卻烏貂意自寛。矮檐傍雪數茆殘。皆勞最是詩家婦。短布行厨不畏寒。
自註見撫松君昏閤勸於供賓故三四及之

日報俳壇　雉子郎選

春淺し
肥り得ぬ子馬憐れみ春淺き　露風
鄉土史に見る山城や春淺き　波入
早春の機場淋しく織休む　麗水子
渠引く子の脚水も遂く春淺し　容堂
旦居ぬけたての往來や春淺し　橙黄子
春淺し木の間に見ゆる舊都の灯　潮外星
春淺し逗留許りの妻の文　北星
忘れ居し悲しみ夢む春淺し　雉子郎
春淺き並木病院へ通ひ飽く　同
早春の旭や禿山の襞は雪　同

餘寒
灯の影に巨牛の肉や春寒し　沛子
曉の湖黒く怖しき餘寒かな　右門
水貧や餘寒の街をこぼし行く　麗水子
化石を仔を産む牛や春寒し　浦南
强き餘寒麥に々田廻りぬ　青奴
落の荷に雨降り續く餘寒哉　鷺風
四門たゞ大なる舊都春寒し　田打夫

春月
井下りて倘目まひする春の月　山民
今酔ひし家汽車に見る春の月　同
粧ひて尼の下山や春の月　烏村
大藩は必ず岩をつらぬき春の月　東村
春月や鷄盗人と見做されし　同
春月や後に人來る谷の橋　容堂
江に滿ちて動ぐ水や春の月　潮外星
朝鮮　公魚を並べて邪魔や春の月　碓川

●實用的景品附大賣出

賣出區域　京城 仁川 兩市內に限る

賣出煙草　景品種目
□しらぎ　一ボールに付　景品券二枚
□百圓票　一ボールに付　景品券一枚
□八島煙　一ボールに付　景品券一枚
□春雨(定價二十錢)　四十匁入二袋毎に　景品券一枚
□浦島(定價廿五錢)　四十匁入二袋毎に　景品券一枚

▲一等　白米五斗入　一俵宛　十本
▲二等　上等醤油一斗入　一樽宛　三十本
▲三等　しらぎ煙　一ボール宛　五十本
▲四等　上等鏡　一個宛　一百本
▲五等　百圓票　五包宛　四百本
▲六等　上等石鹸　一個宛　二萬餘本

一本の空籤なし

賣出期間　自三月五日至四月四日　一ヶ月間
抽籤期日　四月十二日
抽籤場所　京城商業會議所
景品引換期限　自四月十七日至四月廿七日
景品引換場所
京城南大門通三丁目　廣江商會　京城總販賣所　電話二五二三番
仁川京町二丁目　玉植商店　電話六五一番

御注意
今回の賣出梱數は極少數にて其賣出區域は京仁兩市中に限られてありますから賣切れぬ間に御仕入相成度所在特約店に於て景品券なきときは廣江特約店に直接御注文被下度候
尙御買求の節は必ず景品券御受取被下度候

●此好機會を逸する勿れ

●煙草空袋交換改正
弊商會發賣に係る捲煙草空袋交換は大正五年二月一日より左の通り改訂致候也
◎金剛　空袋十枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
◎神代　空袋十枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
◎しらぎ　空袋廿枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
◎百圓票　空袋廿枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
◎カブト　空袋廿枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
◎一圓票　空袋廿枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
◎十圓票　空袋廿枚に付　寶物一個　又は　活動寫眞入場券一枚
空袋交換所　京城太平通二丁目四ツ角　廣江商會

◎露批評家の獨軍觀
獨軍春暖の候を待つて活動せん

露國軍事批評家の觀察する所として傳ふるところに依れば獨軍は春期の近づくと共にドヴヰンスク方面に再び取纏めたる軍隊を動かして更に大活動を試みんとする氣配を示せり而して諸所に小規模の示威戰を行ひつゝあるは軍隊を集中する地方を知らしめざらんとの用意に出づと

◎米軍墨西哥に入る
米國パーシング少將の率ゆる軍隊は此の程墨西哥に入れり同少將は曾て駐日米國大使館附武官として日本に駐在せる事あり夙に日本通を以て知らる尚明治天皇御大葬に際して米國特使ノックスの隨員として來朝せり最近米國國境軍司令官の任にありたり(紐育電報)

◎勃羅兩軍の激戰
オデッサよりの報道に據ればダニューブ河ラホウオ附近の勃牙利國境守備兵は羅馬尼の大砲臼砲を積載したる羅馬尼船に對し發砲せり附近にありし墺國砲艦は同船に對し勃牙利河岸に到るべきを命じたるも同船は命令を拒絶したるを以て砲撃せられ羅馬尼軍隊も之に應戰し彼我暫時激戰を極め多數の死傷者を出したり(倫敦電報)

◎出征軍人に貯金獎勵
飽迄支那式の遣口＝貯金簿を發送

北京政府は出征軍人の貯金獎勵の爲め貯金簿五萬册を南方に送附したり右は一は兵士をして貯金の觀念を獎勵せしむる爲と一は政府が討伐に支出せる軍費の一部を回收して一時立替せんとの策なるべし(北京特電)

◎北軍南溪奪取公報
北京政府の公報に據れば九日北軍は南溪を降服せしめ南軍は長寧方面に退却せり(北京特電)

◎八阪丸船長賞行
昨年末地中海にて敵潜航艇の爲め遭難せし八阪丸船長以下に對し十五日行賞の御沙汰ありたり(東京特電)

敍勳五等授瑞寶章　元八阪丸船長　山脇武夫
敍勳六等授瑞寶章　同機關長　福西唐德
同無線電信局長　足達文吾
賜銀盃一組

◎露公使任命發表
駐支露國公使クルペンスキー氏を駐日大使に任命する旨發表されたり(露都電報)

◎趙男禮遇停止
朝鮮貴族男爵趙同熙氏は家資分散を爲せしため朝鮮貴族令第八條に依り十二日より貴族の禮遇を受くる事を得ざる旨宮內省宗秩寮より發表されたり(東京特電)

◎電車賃値上可決
東京市の電車賃値上案討議の市會は十四日午後四時開會討論夜半に及び遂に十九對四十九の多數にて値上案可決通過したり(東京特電)

◎青島稅關長陞敍
青島稅關長橘正樹氏は十五日附を以て勳五等に敍し双光旭日章を授けられたり(東京電報)

◎日滿聯絡貨物激增
開始以來の盛況

二月中に於ける朝鮮經由及び發著の日滿聯絡貨物の輸送は非常なる盛況にて總數量千百六十噸に及び之を前月に比すれば四百七十三噸の增加を見、前年同月に比較すれば實に八百三十二噸の激增を示し居れり斯の如きは實に一昨年一月本聯絡運輸開始以來初ての好況にして近時寄りくく問題と爲り居れる本聯絡期限滿了後に於ける續否の問題に對し何等かの暗示を與ふるにも似て興あり而して此內譯は依然として內地及び朝鮮より哈爾賓へ向け發送せられたるもののみにして東滿線より輸入せられたるものとて更に絕無なり內地發哈爾賓著貨物の種目は莫大小製品(主として襯衣)三百三噸を第一とし白米の百七十四噸之に亞ぎ綿布の百十七噸、綿の七十五噸、紙の五十三噸、麥粉用袋の廿八噸、綿絲の十七噸等を主なるものとし其全計八百八噸にして全數の約三分の二に相當す更に朝鮮發哈爾賓著の貨物は少量の飯食器ありたる外他は殆んど全部朝鮮米にして之が數量三百五十二噸に達し居れり

◎大阪だより
金融界の緩漫なるに乘じ戰役の需要[illegible]方面紡績業の企畫されつゝあり鍾東洋日瑞の三萬錘を初めとして堺紡、尼紡の二萬餘錘備津錦紡の八千[illegible]然も新くして各社が競うて增錘[illegible]り來る新工場の位置につきて盛んに[illegible]の小會社の合併位に[illegible]は物紡績か福島紡績に向つて頻に秋波を[illegible]の如きは尼紡[illegible]事者に於ても若し[illegible]として[illegible]池の斷行の爲めに多[illegible]戰より漸次に紡績トラストの出現機運は促進されつゝあるものにて時局[illegible]

◎失火罪は二十圓　京城[illegible]

◎咸鏡線の前途
國道局經理課長　加藤正美氏談

▲咸鏡線年度割　敷設工費一千萬餘圓を以て大正三年度より大正七年度に至る五箇年繼續事業として目下頻りに工事中なる咸鏡線は淸津會寧間(五十八哩六)と元山永興間(三十四哩八)の二區間にして永興檢城間(二百八十三哩九)の含まれ居らざる事は世人の熟知する所なるが當初咸鏡線現工事が議會の承認を經るに際しては淸津會寧間及び之に聯結すべく元山より淸津會寧間の分岐點檢城に至るべく建設の計畫ありしものにて議會にても其れに對しては承認を與へたりしも工費の部合上淸津會寧間、元山永興間のみを左の年度割にて五箇年間に支出せらるゝ事と爲りしものなり

	淸會間	元永間
大正三年度	二〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
大正四年度	一、八〇四、八〇〇	[illegible]
大正五年度	一、八〇九、九〇五	[illegible]
大正六年度	三、一〇〇、五七九	[illegible]
大正七年度	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]
一哩當り	[illegible]	[illegible]

而して既に二箇年の工程終らんとして既に元山文川間、淸津會寧間に於て頻りに進捗中なりしが其狀況は淸津會寧間に於ける洪水の爲め大正四年度に於て多少の豫定變更を見たる外順次進行し居れば無論期限迄には竣工を見營業開始を爲すや必せり

▲永興檢城線如何　然らば永興檢城間の建設奈何是れ誰れしも期待渴望せる所なるが何分工費支出の巨額に達すべきにより大に財政上の關係を顧慮するの要あり右表に據り元永間は一哩當り八萬餘圓にて足り居れど淸會間は十五萬餘圓を費せし居れり永興檢城間は淸會間の如く險工事にはあらざれども元山永興間の如く平地のみにもあらず未だ豫算決定せるにあらざれば此際確言する能はざれど右の例に依り先づ一哩當り十萬圓乃至十二三萬圓と見ても三千萬圓內外乃至三千四五百萬圓を要すべし此巨資を投ずべく國家財政に於ても既に一旦議會を通過したる線路なれば何れは敷設せられざるべからざるも此豫算案が果して明年度に提出せらるべきか明後年度に提出せらるべきかは無論不明にて今茲に言明し得ざる所なり其遲速一に母國の財政奈何に據るは今更に言を俟たず

◎客年輸移出牛
國境輸出激增

大正四年中に於ける朝鮮牛の輸移出數量は合計二萬四千六百十九頭にして之を大正三年中の輸移出額二萬二千八百十九頭に比すれば千八百頭を增加せるも價額に於ては總計七十萬九百二十四圓にして三年中の八十一萬五千五百四十八圓に比し十一萬四千六百二十四圓を減せり、今其主なる仕向地を見るに內地一萬一千三百三十二頭價額二十五萬二千九百八十九圓、露領九千七百七頭價額三十四萬三千五百九十四圓、支那三千五百八十頭價額十萬四千三百四十一圓なり、右の內國境よりの輸出額を見るに鴨綠江沿岸は七百六十九頭價額二萬一千六百十七圓にして大正三年中の二百五十四頭九千三百三十三圓に比すれば五百十五頭一萬二千二百八十四圓の激增を示し、豆滿江岸は九千五百六十九頭三十四萬一千二百九十三圓にして三年中の七千百三十六頭三十四萬二百八十八圓に比し頭數に於ては一千四百三十三頭の著しき增加を見たるも其價額は一千五圓の增加に過ぎざりき

◎徵兵檢査施行
大正五年度京城に於ける徵兵檢査は四月一日より六日迄龍山步兵第三十五聯隊に於て施行の筈にて適齡者には大正五年三月聯隊長より其々通知ありたるが受驗壯丁八百六十五人の受驗日割左の如し

	甲種壯丁	現役志願	計
▲四月一日			
第四師團	六〇	—	六〇
第五師團	三九	—	三九
計	九〇	—	九〇
▲同二日			
第十師團	一一七	三	一二〇
第十一師團	一〇七	—	一〇七
計	一二四	三	一二七
▲同三日			
第一師團	一三三	—	一三三
第十二師團	一二六	四	一三〇
計	一五八	五	一六三
▲同四日			
第六師團	五六	—	五六
第十八師團	一〇五	一	一〇六
計	一六一	二	一六三
▲同五日			
第七師團	四	—	四
第八師團	四七	—	四七
第十六師團	三四	一	三五
第十七師團	六四	三	六七
計	一五六	四	一六〇
▲同六日			
第二師團	二三	一	二四
第三師團	三〇	一	三一
第九師團	二七	—	二七
第十四師團	一九	—	一九
第十三師團	一四	—	一四
第十五師團	一七	—	一七
計	一三〇	二	一三二
總計	八四八	一七	八六五

此外六週間現役兵の身躰檢査は四月一日午前施行せらるゝ豫定にて檢査開始の時刻は午前は八時より午後は一時より行ふ檢査の許可を受けたる者は檢査(呼出狀に示しある月日)前日迄に檢査地に來り檢査施行部隊(檢查員)に出頭し宿所氏名を屆出で檢查當日は最近撮影の寫眞(脫帽)を携帶すべく寫眞の裏面には原籍地、居留地を記入し係員に差出すべし更に檢查合格の上一年志願兵を志願する者は其旨現場に於て申出づれば可なりと

◎補習教育新設
京城府內小學校又は高等小學校卒業後引續き就學せざる兒童中には家庭の狀況及び外界の關係等に依り既に受けたる教育すら殆ど効果を失ふものありて國民教育上最も遺憾とせられ居るが京城學校組合にては昨年に於て實業補習學校を設け補習教育を實施し以て教育の効果を收むるに努めて遺憾なきを期すると同時に實業趣味の養成を計り各自家業に精勵せしめんことを企圖したりしに其成績の稍見る可きものありしを幸び本年度に於ては更に進んで左記學校に補習科を附設し來る四月一日より開校前述の目的を達することに勗むべし

櫻井小學校　女兒[illegible]一學級
南大門小學校　男兒同
元町小學校　男女甲夜同

◎赤十字と助產婦
日本赤十字朝鮮各道支部にては朝鮮本部の補助を得て大正三年以來各道慈惠醫院に委託し一支部毎に年々二名宛の速成助產婦を養成し居れるが本年に於ても各支部とも第三回助產婦の養成中なり而して其卒業生は適當なる場所に於て限地開業を爲さしめ居れるが成績何れも良好なりと

◎輕鐵及軌道調査
關東都督府事務官小池寬治氏は馬淵屬を隨へ不日來鮮輕鐵及び軌道に關する事業の視察調査を爲す由

◎課金問題役員會
京城商業會議所にては滯納課金處分の件に就き十四日役員會を開會したる上同議の結果會議所は營業家の團體なれば官廳よりの課稅を滯納したる場合に行ふが如き處分を爲すは假りに法令の與へられたる强制執行の權能あるにもせよ直ちに之れを適用して處分を行ふは單に會議所の感情を害するのみならず會議所本來の目的たる工業發達の上にも面白からざる結果を生ず可きものなれば寧ろ滯納者の所置に就ては德義心に訴ふるを以て妥當なりとせずやとの穩和說出で結局今一應督促を爲したる上尙ほ且納入せざるに於ては更に處分の方法を考ふるも强ち遲からずと決定し散會したるが會議所は十五日其々督促を發したり

◎協贊會殘務整理結了
京城協贊會は共進會後殘務整理のため京城商業會議所樓上に於て執務中なりしが此程全部の整理を終り去る十四日京城協贊會事務報告書千五百部も此數日中に到着するを以て來る二十日頃迄に全部の解散を見るに至る可く目下其準備中なり因に殘餘金六千圓は總務に處分方を一任したる由

◎新設郵便局所
遞信局大正五年度豫算中新事業に屬するものは全道に郵便局所の新設なるが目下其設置地點に就て調査中なるも總數約十箇所の豫定にて早きは本年四五月頃より遲きは來年春期頃ならんと

◎京釜線改修落札
京釜線改良工事中新舊若木間其他線路改良工事入札あり津田辰次郎氏に十萬三千圓にて落札したり

◎退職警視送別宴
今回退職せる前木浦警察署長警視淺野能遷氏及前咸興警務署長警視新本勇四郎氏等の入京を機とし當地官民有志は十七日巴城館に於て盛なる送別宴を催す由

◎英文金剛山案內
ヂャパンツーリスト、ビユーローの委囑を受け目下印刷中なりしゴールブレス社長吉地調査の上記述せし英文金剛山案內は「ガイド、ツー、コンゴーサン(ダイヤモンドマウンテーン)」と命名同ビユーロー朝鮮支部より出版せらるゝ事となり此程製本出來せし由なるが四六版五十頁の瀟洒たる裝釘にて序文より探勝希望者への注意に至る十中の每葉必ず一二箇所の精緻なる寫眞版を挿入し親切を極むる若し其れ行文の自在流暢なるに至りては世既に定評ある處復喋々する限りにあらず思ふに一般外人旅客に對する好ガイドたるべく同局支部にては既に多少の關係者に宛て發送せられしが近く季節を待ちて大に配布せらるべし

人事消息
▲伊藤久米藏氏(工學博士)　十五日夕入京朝鮮ホテルへ
▲山口泉吉氏(長崎造船所技師)　同上
▲水谷千萬吉氏(平壤鑛業所長)　十五日夕入京浦尾旅館へ
▲中小路鎗次郎氏(三矢鑛泉會社員)　十五日夕入京朝鮮ホテルへ
▲杉山茂丸氏　同上
▲淸水潔氏(會社員)　同上
▲成富公平氏(會社員)　同上
▲松井房二郎氏(全羅北道第二部長)　十五日朝入京浦尾旅館へ

▲訂正　十六日朝刊二面「來鮮の二博士」と題する記事中　其行啟の本旨を述べし奉るの光榮云々は傳ふる者の誤りに付訂正す

淸會線(三)
淸津貿易と鐵道

淸會鐵道を論ぜんと欲せば、北鮮の咽喉にして是れと密接の關係を有する淸津港を中心として語るを適當とす、蓋し將來淸會鐵道開通の曉に於て集散する物資は必ず淸津港を經由すべければなり、故に今同港に於ける過去數年間の貿易の實蹟を基礎とし更に今後發展の趨勢を豫測せんに明治四十一年同港開港の翌年に於ては輸移出入貿易額百三萬九千圓に達し、此間約二倍半の激增を見、四十三年間島運春地方に輸出入する貨物に對する免稅通過制度の實施せられ、同年末其額五十萬圓に上り、爾來年と共に增加し大正四年中に於ては輸移出二十二萬三千四百餘圓、輸移入二百五十萬六千四百餘圓計二百二十七萬九千八百餘圓にして之を大正三年中の輸移出十五萬八千九百圓、輸移入百四十七萬六千三百餘圓計百六十三萬五千二百圓に比すれば輸移出に於て六萬四千四百餘圓即ち四割強、輸移入に於て五十八萬百餘圓即ち約四割、合計に於て六十四萬四千五百餘圓の激增を見たり、如斯四年中に於ける貿易の發展を爲したるは、淸會鐵道工事の影響に由るものなりと雖も亦自然の趨勢に因る增進なりと云はざる可らず輸移出の增加は水產物其他の產物の增進發達に伴へる結果なり、然れども現在の貿易額の大部分は輸移入品にして所謂片貿易の嫌あるは、陸上交通機關の不備に基因するもの多く從つて淸津港と淸會鐵道とは最も密接なる連鎖を爲すものと謂ふべし、淸津が四十一年の開港後如何に發達し來りたるかの程度を知らば淸會鐵道開通後に於ける大勢も亦窺ひ知るに難からざるべし(單位圓)

年次	輸移出	輸移入	計
四一年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四二年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四三年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四四年	[illegible]	[illegible]	[illegible]

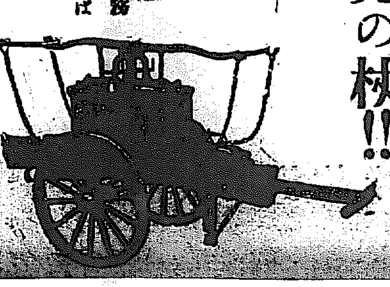
年次	出貨物	入貨物	計
元年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四年	[illegible]	[illegible]	[illegible]

淸津港の貿易は前記の外通過貿易と稱し國境間島、琿春地方へ出入する貨物と沿岸貿易通關貿易等四種あり何れも鐵道の開通に由て著しき發達を遂ぐるは必然の結果なれども就中通過貿易にありては、從來支那馬車或は輕鐵又は鮮人の牛車等にて運搬されたるものなるも、淸會線開通と共に全然鐵道の便に依る可きは敢て言を俟たず、今大正四年中に於ける是等貿易額を對照表示すれば如左(單位圓)

種別	出貨物	入貨物	計
輸移出入貿易	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沿岸貿易	[illegible]	[illegible]	[illegible]
通過貿易	[illegible]	[illegible]	[illegible]
通關貿易	[illegible]	[illegible]	[illegible]
總計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

如斯五百萬圓に餘る貿易狀態なれば淸會線開通の際に至らば六百萬圓以上の貿易額を見る可きは明かなり以上は主に淸津稅關支署の調査を基礎とせるものなるが更に淸津府廳調査にかゝる貿易統計を參照せむ

◎轉ばぬ先の杖!!
火事の前に
熊平製ポンプを設備せられよ
弊店販賣の喞筒は發送の際一々警務總監部の嚴密なる御試驗を受くれば最も御安心なり
京城本町二丁目　熊平支店　電話六二三番　振替京城二三番



英和 簿記講習錄
大家にして敎授科目は商業○會社○銀行○官廳○工業○家政○英文○ト簿記○全科僅か三ケ月卒業とす全國の會社銀行商店官廳は卒業者を歡迎入優遇す此際入學者へ奬學資金提供就職紹介其他十大特典あり又獨習雜誌(簿記の友)は會員に限り無代進呈之に依り英語會話、作文、商事要項を修學せしむ本講習錄見本及會則進呈○東京芝區榮町○大日本通信學院

認可私立 下關高等簿記學校 學生募集
普通科約百名速成科約四拾名年齡滿拾參歲より四拾歲迄小學卒業程度以上修業期間五ケ月乃至七ケ月卒業後は本校より內外會社銀行諸官省商店等へ就職紹介す寄宿舍の設あり詳細は武錢郵券送規則書請求すべし　四月中に校舍新築成す　下關
就職の最近道は簿記である簿記の出來る青年であれば朝に職を求めて夕に職に就けるのである論より證據本講習錄の卒業者は毎月五十名乃至八十名であるが何れも會社銀行其他より雇入を豫約し來るの盛況である少の時間と最少の學費を以て青年實務家となり立身成功を望むなれば一刻も早く本講習錄に就き簿記を修學するにあります講師は斯界專門の

新刊 第廿編 管子・晏子春秋
金裝本各、定價貳圓五拾錢(郵稅十六錢)全十册五錢(郵稅六錢)
學習院教授　小柳司氣太先生校訂頭註
管子七十六編は齊の管仲の書、牧民立政の經營より度量衡の綱目に至る迄◎苟も社會の經濟に關する事項は漏すなく、民を富まし民を寶として評し以て國學總綸の大主義となすべきを論述し、世界最古の經濟學を採りて東西に研究せらるゝ名籍也、今晏子春秋は齊の名相晏嬰の言行を記せし者、全八編、文章流暢義理明晰、後儒傳記の典雅として之を尊重す本書適切なる註解書なし、今詳細なる頭註を加へ邦儒安井息軒の研究者は必ず熟讀玩味せざる可らず一般學者學生は勿論、法制經濟歷史の研究者は必ず熟讀玩味せざる可らず
見本進呈　往復書申込　東京神田　富山房　振替五〇一
當校代訂　碩註學釋　漢文大系
模範的大覆刻萬世不朽の世界的寶典　二十二卷にて全部完結

漢學講義錄
速成一ケ年卒業■講義通俗平易■詩文添削ヶ質疑應答無料■紀念大特典提供■見本付會則無代進呈■東京神田北神保町帝國漢學普及會
創立後十五歲　講義懇切平易■文章添削一切無料■文章雜誌進呈
第廿二回新學期開講せり
最新 文章講義錄
第二十二回入學者には▼入學金全免▼文見本つき月謝一期分免除の外沙翁三百年祭紀念の爲め沙翁傑作を洩れなく無料進呈無料進呈
日本文章學院　東京牛込矢來町
講義は時代に應じて年々改善す

[illegible]會社の計畫さるゝもの[illegible]に至れり昨年來增錘の決定せるもの[illegible]にても富士瓦斯の五萬錘合同の四萬[illegible]以上の增錘を見るべく之に伴ひて一[illegible]增錘計畫を算入する時は近く三十萬[illegible]に[illegible]樣[illegible]もあり且其の多くは之等增錘よ[illegible]る紡績會社が其の生產勢力競爭の結[illegible]界の[illegible]を付て[illegible]傳ふるに至れり而して攝津尼紡の合同斯くして大會社の合同による大[illegible]共に[illegible]も其形式に於て[illegible]となり行くは最も注目すべきことなり（十三日大阪電報）

京阪合併大相撲（い）

＝特派員發電＝

十五日午後七時大阪にて

△西軍振ひたれども三大關枕を並べて倒る

三日目復又滿員　九州源氏相傷く

△三日目の勝負

○印は東京方

勝　負　勝　負

千葉崎○男鈴山　大森○朝日山
駒泉○朝日潟　國見崎○小若島
明り殿　常の花○日出山
紅葉川○鳴門岩　宮木山○宮城山
鳳車　源氏山
宇都宮○鶴ケ嶽　敷島○初嵐
時ケ嶽○稻の穗　大泉○寒玉子
四海波○龜鶴山　朝○緋縅
駒ケ嶽　ちやり　九州山
黑瀨川　相生
小常陸　響矢
西の森　紫雲龍
對馬洋　預　玉櫻
浦の濱　千舟川
大錦　有若
大蛇潟　加古川
朝潮　松の音
太刀山　時の矢

▲中入後

琴の浦　玉手山　梅の川　朝風
玉の川　大砲　龍ケ崎　朝千鳥
大の川　緋縅　兩國　大達
栃木山　大嵐
綾川　休　大錦　西の海　大門
大鳴門　小染川

押し寄り進み體を預けてあびせ倒さんとするを打ちやりて駒の勝■黑瀨川に相生は右四つ相生が寄らんとするを黑瀨左上手を引いて廻り込み反對に吊り身に寄り倒して黑瀨の勝

■小常陸に響矢　は突き合ひ再三叩きしも利かず押し切りて小常陸の勝■紫雲龍に西の森は西素早く二本差したるを紫雲龍挾み付き押し進みし時は西危く殘して廻はり込み吊り込みに寄り切る

■對馬洋に玉櫻　は玉押れて一と仕事せんとするを對馬押へて右上手を引き强引に吊り身に寄り進み上手投げを打ちしも好く體を突き付けしため對馬土俵を割り軍扇は玉櫻に揚りしも物言ひ付き丸預りと爲る

■浦の濱に千舟川　は劇しく突き合ひ千舟張り手を用ひて突進するを浦撈いて左を差せば千舟右手を浦の頸に捲いて首投げに行きし時はあはや極まらんとしたるが浦好く殘して突き拔き千舟後ろ向きとなるを突張り浦の勝は烈しき相撲たり■大錦に有若は有二本差して一氣に寄らんとするを錦右手に有の首を捲いて强引にひねりて錦の勝は大喝采

■大蛇潟に加古川　は一寸突き合ひ古加敵の右手を引つ掛けた足を渡し込まんとするを大蛇殘して叩き加古の殘すを素首落しに行けば加古手を突く

■朝潮に松の音　松立上りさま左を差して鋭く寄るを朝上手投げを打ちて廻はり込み左を差すや反對に寄り進み松殘さんとするをひねり氣味に寄り倒し朝の勝■太刀山に時の矢は時の突張る右手を太刀右手に押へて引上げ氣味に突離せば時の體は輕く土俵の外に飛ぶ

▲中入後

■琴の浦に玉手山は一押に押し琴の勝■梅川に朝風は簡單に突張り出して梅の勝■玉の川に大砲は右四ツ玉喰下つて外掛けに切返へしたるが同體に落ち預かり■龍ケ崎に朝千鳥は突き合ひ朝突き進むを龍殘しつゝこの左手を取つてトッタリ極まる■兩國に大達は左四つ兩國得意の投げ物の見事に極る■大の川に緋縅は無雜作に引落して大の勝■栃木山に大嵐は左四つにて嵐が內掛に凭れんとするを寄り切り栃木の勝

■小染川に大鳴門　鳴門突張りを連發して攻めかゝれば小染殘して渡り合ひつゝ右を差さんとするを鳴門突き除け押倒して鳴門の勝■綾川に大錦は綾川病氣にて休■西の海に大門は左四つ下手投にて西の勝にて打出し

△四日目の取組

小若島　駒泉
[illegible]山　四國洋
朝風　國見崎
鳳車　敷島
相生　源氏山
大砲　稻の穗
宮木山　紫雲龍
大達　四海波
黑緋縅　小常陸
大嵐　栃木山
朝千鳥　琴ケ浦
玉櫻
鶴ケ嶽　有若　朝潮
松の音
小染川
加古川
時の矢
大錦
西の森
朝日松　太刀山

殿り　紅葉川
鳴門岩　常の花
駒ケ嶽　梅川
日出山　千葉崎
朝日潟　宇都宮
初嵐　玉の川
大泉　宮城山
時ケ嶽　大鳴門
緋ノ緘　龍ケ崎
響矢　寒玉子
大門　大の川
大蛇潟
九州山
黑瀨川
兩國
大錦
浦の濱
西の海

◉戰線から二千米突

前に步兵後に重砲兵　衛生隊の苦戰

金鵄勳章を賜はつた　警務總監部の　仁田警部

警務總監部高等警察課勤務の警部仁田定直氏は日獨戰爭靑島攻圍軍に從軍し奮鬪力戰其功空しからず名譽ある金鵄勳章功七級を拜受する光榮の身となつた十五日午後警務總監部に同氏を訪問して當時の追想談を聞いた、同氏は極めて謙遜の態度で　別にお話し申上げる程の功勞もありません、幸に金鵄勳章を拜受するの光榮に浴したのは洵に僥倖とでも申しませう、

私は獨立第十八師團の衛生隊本部に參加し部員約百名と共に收容部附となつてゐました、衛生本部には、步兵二個中隊と輜重兵一個中隊と別に幾分の兵員が附隨してゐます、私等は常に戰線から二千米突以內に在つて擔架で送り込んで來る負傷者に應急の手當を加ふることになつてゐました、其れで大抵前方の步兵と後方の重砲兵隊との中間に挾まつてゐましたから、少しの戰鬪が開始されますと砲彈から見舞はれるとは度々でした、但其任務として負傷者に輕重の區別をつけて其れ〳〵分擔されてゐる治療箇所に送ることに努めてゐるので、もう其場合に遭遇しますと別に恐怖心も起らず、只眼のあたり苦んでゐる負傷者に同情して[illegible]に多忙なことでありました、間斷なく打出される砲彈は恰も落雷と同樣のもので縱令遠距離に逃れて居つても命中する時は打殪され接近して居つても却つて助かる場合が多いやうなもので、私等は寧ろ　戰死するなら成る可く多數の砲彈を受けて花々しい最後を遂げたいものであると覺悟するやうになります、要するに其觀念が定まつて終ふのでありませう、殊に大正三年十月卅九日から開始された總攻擊は前後八日間繼續されて遂に十一月七日の未明に陷落の白旗を見たのでありましたが、其の八日間は實に

警務總監部勤務　仁田定直氏

猛烈な戰鬪でありました、山腹や谿谷には到る所彼我の死傷者が累々としてゐる中を早朝の旭日と共に各砲臺の山頂に日章旗の飜つた際の痛快壯絕なことは今尙眼に髣髴として殘つてゐます、私等の最も困難したのは前面にイルチス、ビスマーク、モルトケ等の各敵砲臺を控へて盛んに　砲彈を浴びながら孤山を越えて進軍してゐますと其の影を海上から認めた敵艦が盛んに砲擊を浴せ掛けたもので我が衛生隊本部なども頗る危險な目を見せつけられました、私等の身邊に落下した砲彈が深さ三四間もあらうといふ大穴を穿ち土砂を捲き立てる時などは餘り氣味のよいものではありませんでした、其れでも塹壕生活に慣れてゐる一般兵士は屈せず戰鬪したものです、次に出征中憂かつたと今も尙思ひ起されるのは大正三年九月一日に長崎から御用船乾坤丸に多數の馬匹と共に乘船して風浪に揉まれつゝ龍口に著船したのが九月八日でしたが其夜から海上は大荒れとなつて支那六十年目の大暴風雨といふことで棧橋は波に沒はれ打寄する荒波に上陸することも出來ず爲めに幾日間も風波に遮られて船中に閉ぢ込められたことでありました爲めに飮料水と食糧とに缺乏を來し　暑さは熱し是が爲め馬匹の斃死する　ものさへ出來其の惡臭强烈で極めて已むなく海水を飮用するに至つた人のもありました、其れから數日の後漸く上陸して行軍をしたが[illegible]大抵ではなかつた[illegible]中に露營して[illegible]雨の[illegible]に下痢の[illegible]夢も見ないことさへあつた、しかし落城の朝砲臺上に[illegible]旗と碧空を掠めて飛行機[illegible]翔した壯快を偲ぶと何等苦痛の跡も殘さないほどに快絕であります[illegible]

◉日黑火藥庫の火藥爆發

損害莫大の見込

十五日午前十一時三十五分東京府下目黑陸軍省目黑火藥庫に貯藏しありたる火藥轟然たる大音響を立て、爆發し建坪十六坪の同建物を瞬間に燒失せり損害大なる見込なるも死傷者は無し（東京特電）

◉春のお休みと家庭の衛生

▼子を持つ親達へ注意　寒い冬の空が暖かい春の空に變つて人の心は外へ外へ飛ぶ、日曜などに子供をつれて郊外散步したりお老人が孫の手引いてお墓詣りなどに出掛けるには

▲至極よい季節となつた併しまだ朝夕は寒さが强いから用心しないと風を引く子供老人などが遠くへ出る時に晝間の積りで出掛けると日暮れになつて晝間步いて汗ばんだ肌著が急にうすら寒く感じて風を引く事があるから注意せねばならぬ此間中から惡るい感冒が流行してゐるやうだが斯樣な

▲傳染性の風邪は都會に近い田舍の方へ漸次に移り行くもので地方には風邪が流行つてゐる風邪にやられたら成るべく體を溫かに保ち食物も溫かい滋養分の多いものを攝つて一日も早く手當を加へ決して無理押しをしてはならない、京城で一時流行した猩紅熱も

▲近來大分下火になつたやうだが未だ安心は出來ないそろ〳〵お彼岸も近づいたお彼岸になるとお

▲學校が休みに

なるとついつい[illegible]胃腸を痛め勝である、又學校でよい習慣が附いてあつたのが春休みの爲め之を破り體を弱め[illegible]遊び度いから子を[illegible]

[illegible]餅の贈答が頻繁に行はれ方々からもつたり貰ふものでつい時間外に餘計に食ひ過しお腹をこはす事が多いから注意すべきである又それ〳〵學校もお休みとなる今迄だと學校に行つて間食の隙がなかつたのが[illegible]

◉三越呉服店改築

三越呉服店京城支店は今回地所を擴張し[illegible]工費は約六萬圓にして木造三階[illegible]小規模なれど本店同樣の設備を爲す筈にて新築中は現在の[illegible]部にて依然營業すべし

古き匂ひ

美術館見物記

[illegible]

□高勾麗の瓦

瓦となりて遺るより玉となりつゝ碎けよや……』の文句は博物館の古美術館の陳列棚に在りしない、あの立派な景福[illegible]

昔の形と色とその儘

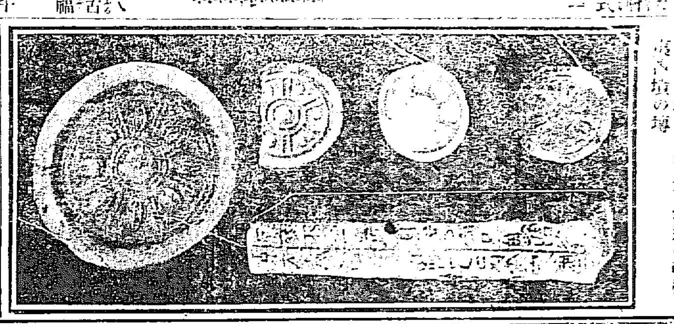
に遺す古瓦を見ては千年のむかしが昨日のやうな感じもする、上の段には丸い文樣の古瓦がある、下の段には四角な古い塼瓦がある、それは皆二千年や一萬年位の時間は我等にとつては朝飯前の事だ……と先づ右端から見て行くと黑ずんだ色の丸瓦には正しい線と

◆唐草の文樣が

あつて『これは平安南道大同江西上流の樂浪の故地、樂浪洞より發掘せるものにて候』とある、西域は又支那の漢から攻め奪られた土地であるから瓦の文樣が漢代の特色を帶びた處に篤とお眼を留められたい、とある、瓦は今から二千二十年前漢の武帝の時造られたものであると愈よ以て怖ろしい、次は

慶州の四天王寺の古瓦

である。文樣は唐草と蓮の花瓣との二つあつたが寺は新羅文武王十九年に建立したもので今でも狼山の南の遺跡を見ると當年の壯觀が偲ばれるといふ事だ、次は扶餘で發掘した白色の古瓦で場所は當年百濟の都たる扶餘山牛月城の城跡であつたが文樣は柔かい線の蓮瓣八片で圍まれてある、由來



（右より）慶州新羅四天王寺の瓦、輯安縣洞溝の瓦（下）黃海道の張撫夷墳の塼

非常に大きな洞溝の瓦

が二つある、洞溝は鴨綠江上流の支那領輯安縣にあつて此處も亦高句麗の首都である、瓦は朱色の徑七八寸に餘る大形であつた下段は又洞溝の古墳から出た四角な塼の側面には『大王陵の安き事山の如く固き事丘の如くあれ』と云ふやうな文字も見える、隣は又黃海道鳳山郡文井面から出た張撫夷といふ當時の

◆帶方大守古墳

から出た塼がある、長さは一尺五寸ばかりで、是を塞の周圍に煉瓦のやうに積みあげたものであると、次に又今から千百年以前に於て既に硝子に等しき釉を用ゐた證據には慶州四天王寺の千鳥形塼があつた、鮎貝氏曰く『朝鮮の瓦は非常に古くて樂浪新羅の漢民族系を代表したものと高勾麗の扶餘族を代表したものと二つある、而して

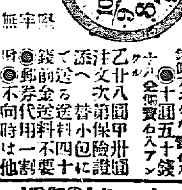
新羅は南洋系民族の樣式

をも加味して居るが支那直系の樂浪には遂に文が主となり手法が堅實である、高勾麗は又主に忍冬唐草の文樣を有つて何れも其文樣及手法に各民族の特長があるのは面白い』と

◆新羅や高勾麗

の瓦は尠なくないが此の百濟瓦は珍らしいといふ事である、そのお隣は平壤から發掘された黑色の瓦と赭色の瓦があつた、その半分は缺けて居たけれ共總じて線が正しく且つ文樣は優しく高い凸狀を爲して居る、高勾麗はむかしの高勾麗の故地──平壤は方なに都を遷したけれども平壤にきたのは其の末期であつたからこれは高勾麗瓦の代表的のものであらう、次に上段の最左端には

腕卷時計



本品は瑞西國製にして最新流行新形輕便と實用的設備と各地に於ける各階級を通じ高評を博し今回左の特價を以て安價販賣す

ニッケル側二十形　金四圓拾錢
銀側　金六圓拾錢
銀側アンクル　金七圓拾錢
十六形　金十圓五十錢
乙廿八圓　甲卅圓
注文次第保險證添へ小包にて送る
送料不要　金代前送　不向時は一割
郵券代用時は一割　品交換又返金

機械保險　堅牢無比

振替大阪一二六一九　日野時計店

圍碁　將棋　聯珠　書籍

右書は當店多年專門出版及販賣に從事して居ます、御望の本は何でも取揃へ有ります◉目錄進呈

書籍無料通信販賣

何本でも著金次第直に送付但し原書價外に法律書類は送料申受可候

振替東京一八八九〇番　東京市京橋區銀座二ノ十　大野萬歲館

新刊書御案内

書名	著者	定價
生物學講話	丘淺次郎	四五〇
進化原論	谷津外一	一五〇
物理學計算理論講義	近藤清次郎	九〇
無門關講義	釋宗演	八〇
文字の訓練	林、後藤	一七五
人生の裏面	村上浪六	一〇〇
信念の發揮	南條文雄	一〇〇
陸海軍人物史論	安井滄溟	一二〇
貰ふ法と買わせる法	佐藤信太郎	七〇
獨逸興國か滅亡か	[illegible]	八〇
心の[illegible]	相馬御風	六〇
遂元錄	稻毛詛風	九五
キップリング短篇小說	馬場孤蝶譯	二五
名金探險小說	青木緑園	五〇
續名金		五〇
伊達騷動	貞玉	三〇
女のうらおもて	青柳有美	九五
世界名士の癖	榎本秋村	四五
女學校生の花嫁さん	與謝野晶子其他	四〇
野の花	黑岩涙香	一三〇
夢想生活	佐々木邦譯	一〇〇
黃金の林	國木田獨步	六〇
獨逸怪艦エムデンの奮戰	ミュッケ副艦長	七五

京城本町　電話二〇八六番　振替京城七一五　大阪屋號書店

安奉沿線五龍背驛を距る二丁
閑靜にして避暑に宜しく避寒に宜し
風光絕佳にして一大樂園地なり
諸病に特効あり理想的療養場なり
宿泊、下宿、自炊、各樣の設備あり
滿洲五龍背溫泉

京日案内
普通（一回前金三十錢（無割引）匿名一回每に金五錢增）

◉有給外交員採用　月給貳拾圓以上　希望者履歷書携帶來談　京城花園町一二二番地　帝國圖書普及會支部

店員一人入用　經驗ある身元確實の者　用達に希望者來談あれ　京城府漢江通入番地　金川商店

◉乳質安全　朝日牧場牛乳販賣部　配達迅速　明治町二丁目　電話二八一八番

▲古本買受▼　▲朝報即時參上▼　▲地方即時送金▼　京城本町電話二五二七ウツボヤ書店

◉古本　品揃店に付無比高價買入御一報次第即刻參上　▲京城本町四電話二七八一番へ　書肆篠田書店

▲鈴木モニカヴハイオリン　▲山葉オルガン　▲ハ直營入　京城本町二丁目角　勢山樂器店

▲番外（一回前金六十錢（無割引）匿名一回每に金五錢增）

▲小供入用　十四歲以上十六歲迄當地居住者にて確實の保證人を要す希望者は履歷書携帶本人來店　三越呉服店

▲朝鮮工業令出來　郵稅六錢　定價卅錢　地方前金　京城本町二丁目　勢山樂器店書籍部

▲女外交員募集　年齡廾歲以上四十歲迄希望者は三十六日午前中京城明治町東屋方京代理部員小野迄來談あれ

皮膚病專門　花柳病　須古醫院　電話二一〇二番
京城永樂町一商品陳列館坂の上

內科　兒科　專門　呼吸器　胃腸病　山田醫院（入院隨意）　京城本町二寄町元中島病院跡　電話二八八〇番

恩給年金立替並青島公債買入　櫻井町一大正館向元祖博多屋　電話一一三一番

賃自働車　京城間合片道四圓　◉京城發午前七時◉春川發午後二時　京城水標橋五十番地電話二一三八　支配人松田壽男

內科　小兒科　ノノ垣醫院　京城若草町（若草湯横入）

▲移轉廣告（元伊佐丁）　質商　弊店は秘密を守り親切丁寧を旨とし御客樣の便利を計り黃金町一丁目大正館北横丁櫻井町角南入る　東屋

住宅向貸家　京城吉野町一丁目衛中の新地家賃月金貳拾圓內外數戶あり入用の方は旭町一丁目小森材木店又は吉野町一丁目中村修道方へ

恩給年金類低利長期立換短期不及便法あり其他擔保信用貸仕候　京城南大門外成町　山口屋

◉はねつき（うちみくじき）等一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場

▲花柳病專門藥　▲詳細は御照會次第迅速回答す　京城永樂町二丁目交番北　東京ドラック商會滿鮮本部

▲龍山むしぶろ　▲子宮▲かつけ▲りようまち▲婦人ひゑしけ▲其他諸病に特効あり▲是非一度試浴あれ　むしぶろ

◉湯屋讓り渡す　門外最も有望の地　希望者は湯屋組合事務所へ御來談あり　電話二千百三十八番

大正五年三月十六日（木曜日） 京城日報 第三千六十號 （四）

千生瓢 (155)

須藤南翠作 筒井年峰畫

誘惑（一）

威の歸する所、諸將、爭つて款を通じ、東西步役を出して、城普請の課役に努めたので、遠大の鴻圖を懐いて設計したる、雄大無双の大阪城は、歲月を費すに及ばずして、速に落成したのである。乃ち寶寺の城を出て、悠然として此の新城に移り坐した羽柴宰相秀吉は、恰も大將軍の如き威重を備へてゐた。

この城一度成るや、諸國の諸侯は皆新城の繁昌を思うて、先を爭つて移住する者夥しく、忽ちの間に市塵櫛比し殷盛の巷、東西に通じ南北に延り、東は玉造郷より、北は天滿郷に列なつて、一大都會を形ち作るに至つた。

錦城に居を卜して、やがて四海の大權をその掌中に握らんとする秀吉には、唯一つの邪魔物があつた。秀吉は如何にして彼を處分して、心安く天下を一統しようかと、日夕これに心を苦めてゐた。

邪魔物とは何であらう？、即ち北畠左近衛中將信雄卿その人である。

この卿は、秋田城介信忠の同腹の弟で、岐阜侍従信孝とは同年同月の生れであるが、其性質は少しも父兄に似た所はなく、優柔不斷、孰れかといへば、臆病で暗愚に近い方であつた。唯故右大臣の第二子、伊勢の國司北畠の名跡といふ、立派な背景を備へてゐるので、秀吉も常に一步を讓つて、信孝と共に後見職に推し、美濃の屋形に對して、尾張の屋形と尊んだのであつたが、信孝は時期に差はず、成効に逸つて自ら滅を急にし、內海の大御堂に

乘乳根の名をば朽せじ梓弓 稻葉の山の露と消ゆとも

と辭世して生害を遂げたのちは、三法師君は幼稚の事、起きうが、伏かうが、別に思慮を要せねども、厄介なのは、この左中將の卿である。暗愚ならば暗愚でまた施す術もあるが、彼の卿には然るべき宿老の家臣もある。其に丹羽五郎左衛門尉長秀といひ、池田紀伊入道勝入といひ、心をこの卿に寄せてゐる以上は、決して輕々しく手を下すことは許されぬのである。畢竟丹羽といひ、池田といひ、今日まで事を共にしたのは、別に秀吉に歸伏しての事ではなく、北畠殿といふ故右府の公達がある爲めに、犬馬の勞をも辭さぬのであつて見れば、惡くすると、此等をも皆敵とする不利益を招かぬともいへぬ。秀吉が苦心はこゝに在つた。

丹羽五郎左衛門には、本領の外に越前一國、加賀二郡までも與へて、十分に歡心を買うて置いたのであるが、彼は北之庄に籠つたまゝ、一步も境を出ようとせぬ。丹羽、柴田といへば織田家無二の老臣である。五郎左衛門に膽略があつたなら、信孝を助けて信從を誅した勢ひで、直ちに義兵を擧げて、光秀を討滅し、或は覇を天下に稱したかも知れなかつたのだ。其ほどの勢威ある長秀が、病氣と稱して久しく北之庄に閉籠つてゐるのは、秀吉として何うして安心して居られう。急に使を走せて、蜂須賀彥右衛門正勝を、城中に招き寄せた。

「彥右、和主を呼んだのは別儀でない。爺々使ひを賴みたいのぢや。快く承引をしてくれう」

秀吉は手づから茶を立てゝ薦めながら、辭を密めて語つた。

「爺々の御使ひ、さて何處おざりませう。仰せられい、違背な仕り申しませぬぢや」

正勝は無造作に承引した。

「些と寒いでの、和殿には氣の毒ぢやが、さて誰を代りの人もないぢやか」

「北國へ行つて貰はう」

「北國？、加賀の前田おざりまするか」

「いや北之庄の五郎左が方へぢや」

「丹羽殿御使者、何御用おざります」

「五郎左久しう病氣と申して、一向に上洛致さぬ。誠病氣か。偽り病ひか。和殿罷り向つて篤と見屆け、是非に大阪へ參るやう、肝要を顧まう所存ぢや」

◎東京化學研究所發明◎
諸病退治 朝夕配達
母乳代用 一合參錢
滋養 玄米乳
京城北米倉町 玄米製乳舍 電話一五四七

◎公州迂疎會句集

日永

蜂人と語る煙草の日永哉 神岳
欠伸して句は平凡の日永哉 貴村
山に水に春を尋ねる日永哉 可舟
永き日を達磨の弟子の座禪哉 同
永き日や納屋に山成す藥仕事 秀峯
地揺る汽車過ぎ宿日の永き 同
陽炎に追はれて遅き日永哉 友泉
香焚いて僧や日永の經の聲 同
山の野をぶら〳〵と日永哉 有無
旅僧の我を相する日永哉 如風
永き日や移りし友を捜しけり 同
普請小屋を見廻る人の日永哉 不醉
縁端に居眠る老の日永哉 香川
歌の會日永の顔の揃ひけり 雨村
埒の中に象の鼻振る日永哉 同
永き日を快晴無事の日誌哉 石香
此鄕の古老と語る日永哉 細夢
春の音の眠をさそふ日永哉 山玉
訓示ありて欠伸坐ふ日の永さ 鳥兎

新刊紹介

▲テキストブック 商業簿記 各種學校入學試驗問題に就き各科の主要部に就き拔萃し作成したる參考書なり（定價金二十錢 東京光風館）

▲詰將棋妙手選 古來より名人大家の名手を集錄したるものにして手筋の解說を附す（定價三十錢 東京市日本橋區北紺屋町 大盛堂）

▲人生之裏面 與謝野寬氏の筆になる人生觀の裏面觀にして又一家の論なり（東京市小石川區 東亞堂）

▲新譯西國立志編 中村正直氏の翻譯せる原著「セルフ、ヘルプ」に省略せられたる部分を補遺し漢文を平易なる口語に改訂せる袖珍形（東京市牛込區神樂坂町 東亞堂）

讀者の鈴（力）

▲近來朝鮮の重石鑛が大當りと來たので慾張り連中は何處かそこらにい重石でも見當らないものかと血眼になつて採險に出掛て御座る（成金崇拜）▲虎は死して皮を殘し人は死して名を殘すと云ふが猫は死して一體何にを殘しますか（臺所の鼠）▲私の所の入口は表門、出口が勝手として誰が見ても分る樣に印をして有るにも不拘大抵の御客は間違て勝手口から御出で困る（第二赤山注進生）▲病年呻吟中は虐待する事甚だしく早く逝け樣がしの御取扱ひ死んでから得氣が付たか成策上か何か一向存ぜぬが可愛さうだはよかつた（入殺？）▲此間より地番一覽圖看板の詐欺云々の投書を見受ますが其看板は早ふから大和町二ペンキヤの雪隱の園に其儀成つてます然し何も譯は無い筈だ（見兼太生）▲土地調査局の班長は萬事粗衣粗食で『賢ろ程頭を垂る稻穗哉』と言ふに類する兩班だ其に引き代へ何とか云ふ男は自分が局長でもあるかの態度だ實に劣等人物だ（人物評論者）

京城龍山漢江通り染料商鍋屋洋行は從來個人經營たりしも今回合名會社となり大阪市東區久太郎町に本社を置き山田合名會社朝鮮支店と變更し一層營業の擴張を計る由

◎早稻田中學講義錄 總長大隈伯の學長高田博士指導の下に數十の博士學士を講師とせる早稻田中學講義錄は通信教授の最も進步せるものなるが四月より新學年を開始し講義の內容に改善を加へ給與地圖標本寫眞插圖を多くし現代諸大家の特別講話をも揭げ理想的の獨學機關たらしむるのみならず本年は教育振興の御沙汰を下させられたる記念として奬學メダル贈呈其他十大特典を提供する由なれば中學程度の學科を獨習せんとする青少年は速に同大學出版部に宛て本附規則書を請求し入學を申出づべし

◎大日本國民中學會の大改良 中學講義錄の發行を以て高名なる同會にては新案の教授法に基きて卒業期を短縮することゝなれるが以て將來の講義錄を全然一新し各科新たに稿を起すこととなり遠藤、山內の兩博士主任として指導すべしと云ふ斯の如く完全なる方法により一層の盛運を見るに至れる原因なる可し尚ほ近く第二十回の新學期を開講し今回の大特典を設けて新入會者を迎ふる由なれば此際の入會最も便なる可く見本つき規則書は申込次第無料にて呈せらる可し

◎新大花朝顔種子の分與 信濃國下高井郡延德村山川賢治氏は豫て盛夏炎熱の候を凌ぐ花として年々粹なる朝顔種を分與しつゝ有るが本年も特に異咲大輪にして何れも徑五寸以上八寸餘に達する有りし新珍大花の種子を完全なる良種なる此程希望者には百八十種類を採合したる選種三百餘粒の一袋實費二十五錢にて向特別賣品として十大花を選出し十種類十袋一組八十錢にて申込順により郵稅無料にて直に送附すべしと云

◎淸水書店の特賣 歐洲戰亂の影響は限りなき紙價の暴騰となり書籍雜誌なして定價の値上斷行を餘儀なくするの苦境に陷れたる此際に於て獨り法律書專門で有名な淸水書店では業務擴張に伴ひ特賣の記念特賣を開催して居るが目覺しい人氣で品數切の爲め或は特賣期間の短縮が行れるか知れぬと云ふ近く出現さるべき定價の値上を見越して同業者及諸官廳などから殺到外に纏まつた多數の註文が輻輳するからださうである

此記事の中に

婦人方に是非必要なものがかくれて居ます――何でせう？

近頃

皆樣が市中をお歩きになると、お化粧もしてゐないのに不思議にお顔の美しい方々をお見かけになりませう。そして其のお顔が唯の美しさではなく、如何にも晴々と、鮮かに水際立つて、此上なく品がよく美しいので思はず見惚れるやうな事がお在りでせう。それからツヒ

昨日まで

餘り美しい方ではなかつたお友達が今日はまた不思議に活々とした艶のある美しいお顔をして被居るので、ハテ〇〇子さん何うして急に生變つたやうにおなんなすつたのだらうと、不審に思召すやうな事もちよい〳〵お在りでせう。このお化粧もなさらずに不思議に美しい方々こそ

朝

使へば一日中顔色を活々と美しく保つこいふ珍しい作用のある新化粧液美顔ユーマーをお用ひになつたので、ツマリ逸早く最近の美容法に就ての學者の研究品を信じてお用ひになつた方々なのです。何故こ申せばこの美顔ユーマーこそ、美顔白粉を發明して

名譽

を揚げた桃谷研究試驗部の學者が、何卒して凡ての婦人のお望に適ふ新しい化粧液を創製し度いものこ、研究に研究を重ねて漸こ出來上つた、如何にも美しい氣持のよい液で、最初の研究の目的通り、此美しい液を顔へおつけになれば、此美しい〳〵液が其儘顔の色艶こなつて

現れる

こいふ不思議の作用を持つてゐる爲

朝使へば一日中顔色を活々と美しく保つのですが、殊に此液には先に桃谷研究試驗部で發見した垢ヌケする成分を多量含んでゐますから、續けて使へば段々と垢ヌケして顔の生地までも美しくなり、次に荒れを防ぐ新成分の力で、どんな寒さにも顔の荒れる事がありません。それから

今一つ

これは是非お試し願度いのですが、美顔ユーマーを白粉の溶水に使へば不思議に白粉のノリノビが良くなりどんな白粉のツキの悪い方でも、お化粧が綺麗に而て手早く出來、殊に白粉に得も言へぬ美しい艶を添へますので、それは〳〵ホントウに美しいお化粧が出來ます。現に今

東京

一の美顔術大家、各宮家御用マリールウキス孃は、美顔白粉の創製以來深く桃谷研究部を御信用になつて、何彼こ力を添へられるやうになりましたが、其後美顔ユーマーを御試驗になり、これは成程從來にない珍しい化粧液であるこ仰在つて非常にお喜びになり、今では美顔ユーマーは美顔白粉共々宮家の御料に召される光榮を擔つて居りますが、此品の今一つの特長は婦人方ばかりでなく

男子

の方々も此液の如何にも附け心地がよいのこ皮膚衞生上の効が優れてゐるのこをお喜びになつて、顔剃後などに用ひて剃刀負けを防ぐ等に盛に御賞用を賜る事で、實際美顔ユーマーは男子方の皮膚にもよく合つて、男らしい風彩を引立てます。定價は一瓶十八錢、各化粧品店等で販賣して居ります。お試しになればきなたも必ず滿足なされます。

醇良清酒 白鶴
仁川本町三丁目 增本酒店 電話一〇九番 振替京城六一九番

入院隨意
京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）
酒井婦人病院 電話二六〇〇番

日韓書房 新版報告
日鮮文對照 朝鮮鑛業令 定價金六拾錢 送料六錢
諸貸金取立法 貸倒復活策 定價一圓參十錢 送料十二錢
女子文章百科全書 定價三圓 送料十八錢
牛山伸 生の要求と文學 定價一圓二十錢 送料十二錢
博文館 長編講談 伊達騷動 定價三十五錢 送料八錢
京城本町二丁目 電話一五四 振替二二五

資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎
株式會社 百三十銀行京城支店 京城本町壹丁目 電話五八番 振替貯金京城一一九四番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

M印 名譽大賞牌受領 コスマリ
大阪唐物町四 坂田商店

最上醬油
朝鮮仁川港
高杉醬油醸造場

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 神丸 三月廿一日後五時出帆
○元山清津浦鹽行 三月 日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 小倉丸 三月 日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 月 日後十時出帆
第三琴平丸 ○元山、西湖、新浦、城津、清津行 三月 日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 三月十九日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大典丸 毎月二日九日十六日廿三日 午後十一時出帆
釜山海岸通 本船取扱店 大池回漕部

大阪商船仁川出帆
○外航所屬航路（沿岸航路を除く）
○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行 吉辰丸 三月十八日 午後五時出帆
× 天智丸 三月廿五日
× 宮島丸 三月廿三日
○木浦、群山、長崎行 安東丸 三月廿五日 午後二時出帆
▲ 城津丸 三月二十日
鎮南浦、大連行 安東丸 三月廿一日 午後二時出帆
信濃川丸 三月廿八日 正午出帆
漳州丸 三月 日
大連直行 潮州丸 三月廿六日 正午出帆
× 福州丸 三月卅一日
群山、釜山、横濱行 潮州丸 三月卅一日 午後二時出帆
福州丸 三月十六日
天津、浦潮行（元山出帆） 須磨丸 三月廿七日 午後二時出帆
臺北丸 三月十七日
大智丸 三月廿二日
上海、基隆、打狗行（大連出帆） 安平丸 三月十六日 後十時出帆
新高丸 三月廿四日 後四時出帆
仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二〇番 五五〇番
京城切符發賣所 內國通運會社支店 電話七〇八番
▲中國四國沿岸各港行組客に對し門司にて連絡乘船切符發賣仕候

共同汽船仁川出帆
鎮南浦、芝罘、大連行 第共同丸 三月十九日後二時
朝鮮西岸沿岸各港經由 青島行定期船 三月廿一日前九時
城津、清津、浦鹽行（元山出帆） 第鶴丸 月 日 後九時
西湖津沿岸各港を經て雄基行 第三 月 日 前八時
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 山下回漕部
京城取次店 河村運送店

朝鮮郵船
全羅丸 三月廿三日
京畿丸 四月二日
成鏡丸 三月廿七日 釜山發
慶尚丸 三月廿四日
黃海丸 三月廿二日
昌平丸 三月十八日 元山發
鏡城丸
平壤丸 四月十二日
忠清丸 三月二十日 元山發
永興丸 毎月廿八回
盈德丸 三月廿二日
江陵丸
襄陽丸 每日
三浦丸 三月十七日 釜山發
海州丸
統營丸
顯天丸
慶興丸 三月十七日 木浦發
公州丸 三月廿一日 木浦發
宗信丸 三月廿二日 仁川發
江原丸 三月十七日 仁川發
麗水丸 三月十八日
晉州丸 三月廿三日 仁川發
錦江丸 毎日午前 仁川發
南陽丸
平安丸 三月廿三日 群山發
松原運送店

日本郵船仁川出帆
○大連、太沽、牛莊行 三河丸 三月廿一日 正午出帆
相模丸 四月四日 正午出帆
高砂丸 四月十日 正午出帆
仁川 堀回漕部

全泉 自動車發著時間表
織居自動車支部

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 三月 日後四時出帆
大有丸 三月十七日後四時出帆
津代丸 三月二十日後四時出帆
蛟龍丸 月 日後四時出帆
君が代丸 月 日後四時出帆
仁川海岸通 高杉回漕部

商況 大阪株式（前場） 大阪三品（前場）

仁川米豆取引所 ▲十五日休會 ▲後場 ▲取組新記錄 ○りの大商內

◎京織牛皮搾取